

Title	意味分析やりました
Sub Title	
Author	重松淳日本語教育研究会(Shigematsu Jun Nihongo kyoiku kenkyukai)
Publisher	慶應義塾大学湘南藤沢学会
Publication year	2010
Jtitle	リサーチメモ
JaLC DOI	
Abstract	重松研は日本語の言葉の微妙な差異を考えまとめることを「意味分析」と呼び、「模擬授業」を補完する意味合いも含め、研究会のもう一つのテーマとして活動してきた。重松研究会発足から約20年、歴代研究生が調査し、蓄積されてきたその「意味分析」をまとめたものである。
Notes	重松淳研究会二十周年記念
Genre	Technical Report
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0302-0000-0645">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=0302-0000-0645</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 意味分析

やりました

重松研

## はじめに

私たち重松研究会は直接法によって、外国人に日本語を教えることを研究してきた。直接法とは学習者の母語や英語のような媒介語を使わずに、その習得目標言語だけで教授する言語教育法である。母語を介する一般的な教授法よりも身ぶりやアイコンタクトを多用し、学習者自身の理解や気づきを基に授業が展開するアクティブな言語教育である。

重松研はこの直接法を学生同士あるいは実際の留学生に対して「模擬授業」を行うことが主な研究だった。ところが、模擬授業を行ってみると普段なにげなく使っている日本語のちょっとした部分が学生に説明できないという状況に何度となく立たされた。それは日本語独特の感覚によるものであり、ネイティブの我々が意識して考えたことがないような言葉の微妙な差異だった。

重松研はこのような日本語の言葉の微妙な差異を考えまとめることを「意味分析」と呼び、「模擬授業」を補完する意味合いも含め、研究会のもう一つのテーマとして活動してきた。本書は研究会発足から約20年、歴代の研究生が調査し、蓄積されてきたその「意味分析」をまとめたものである。

意味分析は次の手順で行われる事を原則とした。①三省堂新明解国語辞典で題目の各言葉の意味を調べる。②数多くの用例を書きだし、代表的な用例を精選する。③用例を基にいくつかの視点に分割して考察する。④考察をまとめる。⑤日本語教育の視点から題目に対して、推奨する教育手順を紹介する。

尚、いくつかの題目に関しては、題目へのより適当なアプローチあるいは研究者の都合上、原則どおりではないものがあるが、ご理解頂きたい。

編集長 四元憲太郎

# 目次

## 名詞

01－気持ち・気分.....	4
02－文明・文化.....	7
03－付近・近く・近所.....	10
04－次・今度.....	13
05－～(という)もの・～(という)こと.....	16
06－楽しさ・楽しみ、悲しさ・悲しみ.....	21
07－ゆがみ・ひずみ.....	28

## 動詞

08－思う・考える.....	31
09－走る・駆ける.....	34
10－ひがむ・そねむ・ねたむ.....	37
11－煮る・炊く・ゆでる・ゆがく.....	40
12－濡らす・浸す・漬ける.....	43
13－冷える・冷める.....	45
14－過ごす・暮らす.....	47
15－帰る・戻る.....	49
16－見る・見える、聞く・聞こえる.....	52
17－足す・加える.....	56
18－たわむ・しなる.....	59

## 形容詞

19－かわいい・かわいらしい.....	62
20－～(しなければ)いけない・～(しなければ)ならない.....	65
21－危ない・危うい.....	67

## 副詞・形動・助詞・助動詞

22－うちに・間に.....	70
23－から・ので.....	74
24－なぜ・どうして.....	77
25－ゆっくり・ゆったり・のんびり.....	80
26－全然・まったく.....	84
27－意外に・結構・割に.....	90

28-すぐに・まもなく・やがて.....	92
29-～していただけますか・～していただけませんか.....	97
30-人称代名詞 そちら・あなた・あんた・きみ・おたく・おまえ・てめえ・きさま.....	103
31-らしい・ようだ.....	107
<b>付録（漢字の使い分け）</b>	
32-とる.....	111
33-ひく.....	114

## 気持ち・気分

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 『気持ち』

- ①何かを見たり、聞いたり、そこに身を置いたりすることによってその人が感じる、快・不快、好き・嫌いなど。(ちょっとした刺激で変わりやすい)
- ②(副詞的に)わずかに感じられる程度である様子。

#### 『気分』

- ①その人がその時々持つ、快・不快などの総合的な心の状態。
- ②その環境に身をおいている人たちが一斉にかもし出す、一種の興奮した精神状態。雰囲気。

辞書記載の意味から「気持ち」はより個人的、「気分」は個人的なものも含むが集団的な要素も持っていると思われる。また「気分」はある時点での総合的な心の状態であるのに対し、「気持ち」は一瞬一瞬における、またはなにかひとつの物事に対する個人の感情である。

### ■用例分析

#### 気持ちのみ使える場合

- ・他人の気持ちを尊重
- ・気持ちをこめる
- ・気持ちが伝わらない
- (・気持ち右に寄せる)

#### 気分のみ使える場合

- ・気分転換をする
- ・気分屋
- ・気分を害された
- ・お祭り気分

#### 両方使える場合

- ・気持ちが悪い/気分が悪い
- ・愉快的気持ち/愉快的気分
- ・気持ち次第/気分次第
- ・気持ちが盛り上がる/気分が盛り上がる

## ■考察

### 視点①一時的なニュアンスの有無

「気持ち」と「気分」の使い分けのポイントの一つは変化のしやすさの度合であると考えられる。

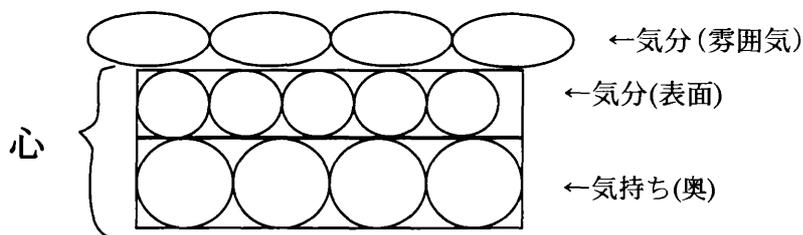
辞書には、「気持ち」の方に『ちょっとした刺激で変わりやすい』と補足が書かれていたが、例文や過去の意味分析を検証すると、どうやらちょっとした刺激で変わりやすいのは、気持ちではなく気分のように思われる。それは、「気分屋」「お祭り気分」などの用例からも見て取れるように、私たちは「気分」を変化しやすく一時的である状態の時に使うことが多い。一方で「気持ち」には一時的なニュアンスはない。「気持ちを込める」「気持ちを尊重する」で「気分」を使うことができないのは、「気分」にある一時的なニュアンスが、継続的な行為である「込める」や「尊重する」にそぐわないからである。

### 視点②語感の差異

視点①に関連して、それぞれのことばが表わせる範囲にも違いを見ることができる。

「気分」の辞書記載の意味には“雰囲気”を含んでいる。「町全体がお祭り気分に含まれている」という言い方が存在することからも、「気分」が個人を離れて集団やその場の様子を表わすことができるとうわかる。「気分転換をする」「気分を害される」は「気持ち」を用いると「気持ちを切り替える」「気持ちを傷つけられる」などと言い換えることができる。しかし「気持ち」は「気分」に比べてより個人的なものであり、心的要因が大きく影響するため、それを“変える”“変えさせる”という意味の文章を見たとき、「気持ち」を使った例文の方により深刻な印象を受けるのである。一方「気分」のほうでは同じく心の状況が変化するのであるが、比較的軽い、表面的な表現となる。

## ■まとめ



図のように、「気分」は“雰囲気”という意味も持つことから、より周囲の影響を強く受けやすい表面的なものである。「気持ち」は「気分」の基になっていて、より個人的で心の深層部にあることから継続的に続くものであると考えられる。「気持ち」と「気分」は連動するが、気持ちが動くとそれと共に気分も動くが、気分が変わったからといって必ずしも気持ちがそれと共に変化するとは限らない。

## ■日本語教育の視点から

「気分」と「気持ち」はどちらも使用頻度が高いので、初級学習者でも使い分けができるようになる必要がある。①心の中において「気分」と「気持ち」は表面とその奥にある関係であること、②「気分」は個人を離れ、集団や場所の雰囲気も表現できること、を教え二つの関係を理解してもらうのが良い。その上で学習者が表現したいことがらに合わせて適切に使い分けができるよう、たくさんの例文を出しながら練習していけばだんだん身につけられるのではないかと思う。

執筆者

赤間千恵子

編集者

庄司由香里

# 文明・文化

## ■辞書記載の意味（三省堂 新明解国語辞典 第六版）

### 「文明」

農耕・牧畜によって生産したものをおもな食料とし、種類の専門職に従事する人々が集まって形成する都市を中心に整然と組織された社会の状態。[通常、狭義の文化[=精神文化]]を伴う。狭義では、そのような社会が、さらに発展し、特に技術の水準が著しく向上した状態を指す。そうした技術の体系（所産）という意味でも用いられ、精神文化（の所産）と対比される。また、技術面・物質面のみが発達したことを強調するために、「技術文明・物質文明」と表現することがある。]

### 「文化」

その人間集団の構成員に共通の価値観を反映した、物心両面にわたる活動の様式（の総体）。また、それによって創り出されたもの。[ただし、生物的本能に基づくものは除外する。狭義では、生産活動と必ずしも直結しない形で真善美を追及したり獲得した知恵・知識を伝達したり人の心に感動を与えたりする高度の精神活動について言う。この場合は、政治・経済・軍事・技術などの領域と対比され、そのことを強調するために「精神文化」ということがある。またもっとも広い用法では、芋を洗って食べたり温泉に入ることを覚えたサルの群れなど、高等動物の集団が特定の生活様式を見につけるに至った場合をも含める。]

## ■用例分析

### 両方使える場合

文化人/文明人

異文化/異文明

西洋文化/西洋文明

文化発祥の地/文明発祥の地

### 文化のみ使える場合

文化財 文化的な生活を送る

文化生活 文化遺産

文化施設 異文化交流

食文化 文化社会

隣村とは文化が違う

### 文明のみ使える場合

文明の利器    文明時代    文明国家

## ■考察

### 視点①物質の「文明」と精神の「文化」

「文明」は端的に言えば技術である。技術は伝達可能な為、たとえ民族や国が違おうとも共有することができる。一方、「文化」は民族や社会の風習・伝統・思考方法・価値観などの総称で、精神的なものであり、民族や国が違えば価値観は共有されない。

「文明」は発達するということに重点が置かれていると考えられる。文明の利器という言葉が象徴しているように、ものが発達し社会が豊かになっていくことを示すから、人々のアイデンティティを支えるというより、人類は普遍的なものを意味しているのではないかと考えられる。一方、「文化」は、異なるものがあるということを前提としている。さらに、それぞれの文化に属することで成立するアイデンティティを生み出す。それ故、異文化交流、異文化理解という言葉が生まれ、また自国の文化を守ろうという考えが生まれるのだと考えられる。

### 視点②地域と時間

「文明」は歴史的に長いスパンで進化を遂げてある程度の地域的な広がりを持つに至ったものを言うが、「文化」は生まれて定着するスパンが「文明」より短く、また地域的広がりも大小ある。

### 視点③進歩するかどうか

「文明」は物質的なもの、「文化」は精神的なものという対比がしっくりくる。「文明」は技術だから、時とともに進歩する。「文化」は変化こそするが、進歩はしない。精神的所産について進歩という表現が適当ではないからである。

### 視点④単語としての使用頻度

「文化」という単語は日常会話での汎用性が非常に高い。対して「文明」という単語は歴史的、学術的な内容の会話で使われることが多いが、日常会話では「文化」という単語に置き換えられて使われているケースもあるように思われる。それは「文化」が「文明」よりも広い意味を持つからである。原義は視点①のように技術の「文明」、精神の「文化」であるが、いちいち原義を意識して使わないので、日常的な意味では「文化」が「文明」の意味を少なからず含んでいる。

## ■まとめ

「文化」は精神的、「文明」は物質的な側面を表現することに特徴がある。

「文化」は短期的に生まれ、変化するが、「文明」は長期的に育ち、進歩する。

「文化」の方が単語として、「文明」よりも使用頻度、範囲が広い。

## ■日本語教育の視点から

「文化」と「文明」という言葉は、日本語の定義上意味わけが非常に難しい言葉である。特に「文化」という言葉に関しては使用頻度も高いため、理解しておく必要がある。理解のための手順としては、「文化は精神的なものを示し、文明は物質的なことを示す」という説明をする。それから2つの定義について説明をしていく。

① 技術の文明、精神の文化

② アイデンティティーと普遍性

これらに対する言葉に具体的な例を出しながら、使い方の説明をしていくことが良いだろう。

執筆者

小林惇子

編集者

四元憲太郎

## 付近・近く・近所

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 【付近】

(その場所および、その)近く。あたり。

「この付近／東京付近」

(〔表記〕 「附近」とも書く)

#### 【近く】

① 近い所。

「近くが火事だ／近くの家」

② 現時点から日時のあまり経過しないうちに何かが行われる様子。

「近く行われる会議で決まるだろう／近く決行する」

#### 【近所】

隣合わせと言ってもいいくらい、その家(場所)から近い所。

「娘は近所の子と学校へ／ビルが爆破され、近所の建物の窓ガラスが壊れた／  
江戸庶民の生活は多く長屋同士の近所づきあいをもとに営まれていた／  
自家用車での深夜の帰宅は近所迷惑だとの声もある」

### ■用例分析

I). どれでも使える場合

- ・家の付近／家の近く／家の近所
- ・付近のコンビニ／近くのコンビニ／近所のコンビニ

II). どれか1つが使えない場合

- ・α館はメディアセンターの(付近○／近く○／近所×)にあります。
- ・トイレは1階の出口の(付近○／近く○／近所×)にあります。

III). どれか1つしか使えない場合

- ・近く試験を行う○／付近試験を行う×／近所試験を行う×(近くの②の意味で用いるとき)
- ・近所づきあい、近所迷惑、ご近所さん○  
近くづきあい、近く迷惑、ご近くさん× (慣用的な使い方をする場合)  
付近づきあい、付近迷惑、ご付近さん×

・ Q : 「A 君はどこにいますか？」

A : 「A 君は B 先生の近くにいます」 ○

「A 君は B 先生の付近にいます」 ×

「A 君は B 先生の近所にいます」 ×

## ■考察

### 視点①距離による使い分け

「ある場所に近い所」の意味で用いる場合を考えてみる。それぞれでややニュアンスが異なる。

- ・ 駅の付近に美味しいお店がある。
- ・ 駅の近くに美味しいお店がある。
- ・ 駅の近所に美味しいお店がある。

この3つの文をみると、辞書的意味にもあるとおり【近所】を用いる場合、駅はかなり近い所に店があるように感じられる。【近く】を使用する場合【近所】ほどではないが「駅から徒歩数分」といった、歩いてすぐなどのイメージが持てるほどの近さに店があるように感じられる。これらと比べて【付近】を用いた場合、近いにしてもその範囲が広い、あるいは範囲が曖昧のように感じられる。

### 視点②汎用性

【付近】や【近所】は用例分析ⅡやⅢのように、文脈によっては使えない場合がある。

- ・ α館はメディアセンターの(付近○／近く○／近所×)にあります。
- ・ トイレは1階の出口の(付近○／近く○／近所×)にあります。

【近所】は主語と目的語が別々の母体に属する建物、あるいは場所であることを条件として用いる。α館とメディアセンターは同じ慶応大学湘南藤沢キャンパスという母体に属する建物である。また、トイレはその建物の1階のフロアであるから、共通の母体に属している。よって【近所】を用いることができない。

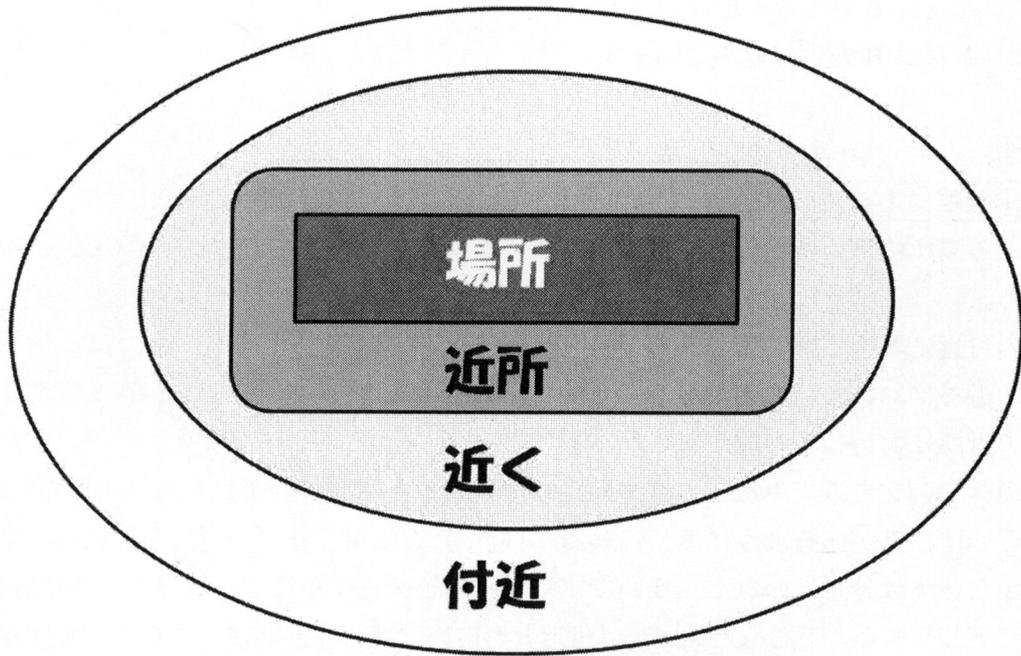
A : 「A 君は B 先生の近くにいます」 ○

「A 君は B 先生の付近にいます」 ×

「A 君は B 先生の近所にいます」 ×

【近く】は主語や目的語を、人や物事、場所もとることができる。【付近】と【近所】は場所や建造物しか主語や目的語にできない。

以上のように、【近く】が最も汎用性が高く、次に【付近】が、【近所】は最も低い。



#### ■まとめ

- ・場所の近い所を指す場合、【付近】を用いる場合にはかなり近い所にあり、【付近】を用いる場合にはかなり曖昧で広い範囲の時に用いられる。
- ・【近く】 > 【付近】 > 【近所】の順に汎用性が高い。

#### ■日本語教育の視点から

「付近・近く・近所」においてまず「近く」が一番早い段階で覚えるものであろう。それとの比較として「付近」と「近所」の違いをどう説明するかが問題になるが、「近所」はかなり近い所にある場合なので比較しやすいのではないかと思う。ただ「付近」と「近く」の比較も含めて、「付近」のほうが範囲が広く曖昧であるといったものの、それ自体主観的に判断されるものであるため、またどちらを用いても間違いではないので、そういった区別がありどちらを使用しても間違いではないことを示せばよい。

執筆者兼編集者

上田智哉

## 次・今度

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

次【つぎ】 ①すぐ後に続くこと。(もの・所)

例) 次の世代 次に控える この次 次から次へと続く

②昔の宿場。宿駅。

例) 五十三次

今度【こんど】 ①何度か行われる物事のうち、現在行っている(行ったばかりの)もの。

例) 今度に限ったことではない。

②ごく最近行ったばかりの事を取り上げて言うのに用いられる語。

例) 今度の大战

③近い将来に実現されると予測されることを取り上げて言う語。

例) 今度アメリカに行くことになりました。

今度(=この次)こそは しっかりやろう。

### ■用例分析

#### 「次」のみ使える場合

- ・ 次から次へと・・・ / ×今度から今度へと・・・
- ・ 次の世代 / ×今度の世代
- ・ 次の日 / ×今度の日
- ・ 次の方、どうぞ。 / ×今度の方、どうぞ。
- ・ 次の駅 / △今度の駅
- ・ この次は・・・ / ×この今度は・・・
- ・ 次に控える / ×今度に控える
- ・ 次の様な例 / ×今度の様な例
- ・ 次の機会 / △×今度の機会
- ・ 社長の次に偉い人 / ×社長の今度に偉い人

#### 「今度」のみ使える場合

- ・ 今度、引っ越すことになりました。 / ×次、引っ越すことになりました。

- ・ (挨拶で) また今度。 / ×また次。
- ・ 今度に限ったことではない。 / ×次に限ったことではない。
- ・ 今度ばかりは我慢の限界だ。 / ×次ばかりは我慢の限界だ。
- ・ 今度こそ本当にさようなら。 / ×次こそ本当にさようなら。

#### 両方使える場合

- ・ 次の月曜日 / 今度の月曜日
- ・ 次は、米国へ転勤することになった。 / 今度は、米国に転勤することになった。
- ・ 次の電車 / 今度の電車
- ・ 次は、フランス語を勉強したい。 / 今度は、フランス語を勉強したい。

### ■考察

#### 視点①連続性の有無

「次から次へと・・・」、「次の駅」、「次の方、どうぞ。」の例文より、「次」には、連続しているものを、対象としていることがある。

それに対して「今度」では、必ずしも連続しているものを指すとは限らない。「今度、引っ越すことになりました。」の例文で考えてみる。一生のうちに何回かは引っ越すかもしれないが、定期的に引っ越しをする、というのはあまり一般的ではない。不定期、確かではない対象を指して、「今度」を使うことができると考える。

また、「次」は、「社長の次に偉い人」の様に、順序を表わすこともできる。

\* 「次」という漢字から考える (読み方は「つぎ」ではないが)・・・

先ほど「次」の連続性について述べたが、役職で使われる「次」という漢字を考えてみても、そのことが伺えるのではないか。国家機関の府・省・庁などで、長たる官職の次に位置づけられる役職に、「～次官」という官職がある。(例：国務次官、外務次官、財務次官など)

#### 視点②「今(またはその直後)の」という意味

「次の電車/今度の電車」では、現在、自分がホームで電車を待っていて、この言葉を使う場合には、「次」も「今度」も同じ意味で使われる。

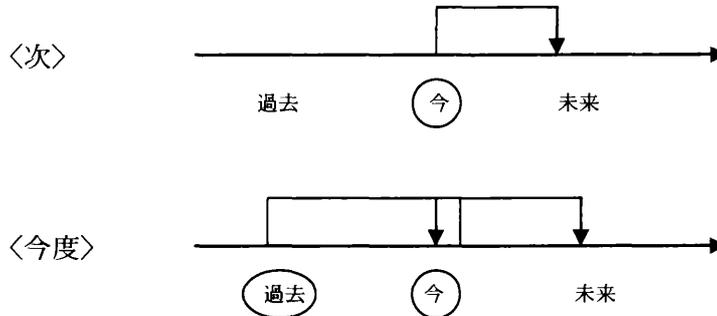
しかし、ホームに電車がいる場合に使うと、「次」と「今度」で異なる意味をもつことがあるのではないか。「次」の場合は、前述の意味と変わらない。“次の電車は急行だ”と言うと、今ホームに停車している電車の次を指すことになる。

だが、同じ状況で、“今度の電車は急行だ”と言うと、今ホームに停車している電車を指す場合がある。このとき、“(さっきの電車は各停だったが、)今度の電車は急行だ”という意味になる。つまり、「今度」が「今」の意味を含んでいる。

「今度ばかりは限界だ」という例文でも、「今度」が、今(またはその直後)の意味を含

んでいる。何か我慢ならない物事が起こっている、または起きた直後に発せられる言葉だと思われる。

視点③（視点①②をふまえた上で） 起点の違い



「次」では、今を起点にして、未来のことを指すことが多い。それに対して「今度」では、今を起点として未来を指す場合もあるが、過去を起点に今を指す場合、過去を起点にして未来を指す場合もあると考えた。

■まとめ

次・・・近い将来、行われる（行う）ことを予測して使われる。

対象となる事柄に連続性がある。

順序、順位を表わすことができる。

今度・・・近い将来、行われる（行う）ことを予測して使われる。

「今（または、その直後）」の意味を含むことがある。

単に順番を表わす使い方はしない。

■日本語教育の視点から

「次」と「今度」の意味は非常に良く似ている。両方とも、基本的には未来のことを指している場合が多い。しかし、「次から次へと・・・」など、「次」にしか使われない言葉があったり、「また今度。」の様に、「今度」しか当てはまらないものがある。その為、どちらか片方しか使えない場合の提示をすることが、必要であると思う。

その際、日本語学習者の混乱を防ぐ為に、「次」と「今度」を一緒に教えてしまうのではなく、状況設定をした上で、別々に分けて教えていくのが良いのではないかと。

その次の段階として、「今度ばかりは我慢できない。」の様な「今（またはその直後）」を意味するものを教えていくのが良いと考える。

執筆者 中田芽衣

編集者 庄司由香里

## ～(という)もの・～(という)こと

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

もの……〔抽象的な存在である〕何らかの思考や判断の対象となるひとまとまりの内容(を備えた物事や事柄)。

「病気というものは経験しなければそのつらさがわからない/山登りほど楽しいものはない/ものには順序がある/政界の腐敗には憤慨がたえない(目に余る)ものがある/ものはずみで [=ちょっとした成行きで] /ものは相談だが [=相談次第でよい結果が得られるが] /ものは試しだ、一つやってみよう/もの [=物事の道理や人情] の分かった人/ものの哀れ/ものを知らない [=基本的な知識や常識に欠ける] にもほどがある/ものの序 [=事の序] /ものも言わず [=一言もしゃべらず] 部屋を出ていった/ものを言う [=a 口をきく。b 効果を現わす] /知らないものは何といわれようが知らない/ものにつけ事に触れて思い出す」

こと……人間が経験・想像する対象のうちで、時間の推移と共に変化して行くと考えられるもの。また、その変化の過程。

「こと [=事態] は(きわめて)重大だ/ことの重要性/本当のこと [=事実] は当分伏せておくがいい/大変なこと [=事態] になった/こと [=問題。大変] だ/ことも有ろうに [=よりによって] /こと有る [=何か問題が起こる] ごとに/一朝こと有る [=何か大事件が起きた] 秋/こと [=事柄の性質] によっては/僕の言うこと [=事柄] を聞いてくれ/…ということ [=話] だ/旅行のこと [=旅行に関する問題の一切] は任せておけ/ことを決める/…してことが済む [=一切が解決する] 問題ではない/こと [=事件] が起きてからでは手遅れだ/ことの起こり/こと [=仮にも問題が] 推理小説となると、私は黙ってはいられない」

### ■用例分析

例1)

- ◎ 人生というものは不思議なものだ。
  - × 人生ということは不思議なものだ。
- ⇒「人生」は名詞。

例2)

- × 明日晴れるというものは、運動会があるということだ。
  - ◎ 明日晴れるということは、運動会があるということだ。
- ⇒「明日晴れる」状態を指す。

例3)

× 私にとって絵を描くというものは生きるものと同じ意味を持つ。

◎ 私にとって絵を描くということは生きることと同じ意味を持つ。

⇒「絵を描く」という動作。

例4)

× それが彼女にとって重要な意味を持つのだというものを理解する必要がある。

◎ それが彼女にとって重要な意味を持つのだということを理解する必要がある。

⇒「重要な意味を持つのだ」というセリフ。

「否定」としての「もの」

例5)

◎ そうは言うものの、私にはどうしようもない。

× そうは言うことの、私にはどうしようもない。

例6)

◎ 昔はよく飲んだものだ。

× 昔はよく飲んだことだ。

⇒この場合、「言う」や「よく飲んだ」は動作であるし、時間性の契機もあるのに、「こと」を使わずに「もの」が正しいのはなぜか。

## ■考察

### 視点①意味論的解釈その1

- ・ ということ 名詞もしくは修飾語を伴った名詞節を引用する 例：日本語ということ
- ・ ということ 述語を含んだ文章を引用する 例：日本語を教えるということ

Googleで「ということ」「名詞+ということ」をキーワードに検索してみたところ、用例の大部分は仮説を裏付けるものだったが、「文章+ということ」「名詞+ということ」の組み合わせも無視できない量が存在した。

例α 一度成功すれば次もうまくいくというものではない。

例β 絶対ということではないが推奨されている。

例γ このウィルスの機能はコンピュータを壊すというものです。

以上のような反例は、「もの」と「こと」の使い分けが、それが指し示すものが名詞であるか文章であるかという統語論的な基準ではなく、意味論的な基準から行われていることを示唆しているように思える。

- ・もの = 物・概念（一般、静的、永続的本質） \* 具体・抽象は無関係
- ・こと = 動作・行為（特殊、動的、宣言、一時的状態）

物や概念を表すのは普通ひとつの名詞のみである。しかし、上の例αのような場合には一続きの文章が一つの概念を表している。「一度成功すれば次もうまくいく」というのは、私たちの住んでいるこの世界はそのような本質をもっているのだという一つの概念を示している。

また、動作や行為は普通、動詞を核として持つ文章によって示されるが、例β「絶対ということ」は意味的に「絶対だということ」と同じであり、これは「絶対だ」という宣言文を引用していると考えられる。

例γの「コンピュータを壊す」は、単に「このウィルスの機能」という名詞節に対応して「もの」となっていると考えられる。

#### 視点②意味論的解釈その2

形式名詞：実質的な意味を失って形式的に名詞としての役割を果たすだけになったもの。

形式名詞がつくことで動詞や形容動詞、形容詞などの存在でなく状態を表す言葉が一つにくくられる。それでは「こと」と「もの」は実際にどのように使い分けているのだろうか。

「こと」は事がつくとおりにある事柄を表しており、前には動作や状態がつく。事柄の説明がなされているときには「こと」が使われる。形のないものが多い。

「もの」は物を表しており、前には物の性質を表す語句がつく。形があるものが多い。ただし、「一度成功したからといってもう一度成功するものではない」の「もの」がなぜ実体がないのに可能かという、これはある思考過程を一まとめにしたものであり、ある一つ概念として実体を持たせたような形だからである。

#### 視点③慣用句

例α 一度成功すれば次もうまくいくというものではない。

これは、授業中に出された例文であるが、この文では「～うまくいく」という『行為』と思われることばであるのに「～というもの」を使っていることで議論になったものである。「～ということ」「～というもの」の前が完全な一文となっている場合（英語で例えるならS+V）且つ

「～ではない」と最後に否定する場合は、「もの」を使っているのではないか。他の例を挙げるとすると、「お金をあげればいいっていうものじゃないでしょ」「満点をとればいいというものではない」という具合である。反対に、前が完全な一文でも、最後は「～である」と肯定する場合は、「こと」を使わなくてはならない。（「走れば走るほど体力がつくということだ」等）つまり、

**S + V～というものではない**

で一つの慣用句になっているのである。

また例5、例6より、

そうは言うものの、私にはどうしようもない。

A

B

昔はよく飲んだもの（だ）（の今はさっぱりだ。）

A

B

この時、A もの(の)B という用法では、A と B は正反対のことを述べている。

反対のことを述べ、「しかし」という否定の意味で使いたいときは、その接続として「もの」を使う。それがフレーズとして定着して現在に至っているのではないか。

## ■まとめ

i 引用した事柄について一般的にとりあつかうのなら「もの」を、一定の条件下に限定された特殊な事柄としてとりあつかうのなら「こと」を用いる、というのがここでの結論である。

ii さらに別の視点から考察すると・・・

形があるもの → もの

形がないもの → こと

例外 → 概念化されているものは実体があるとしてもものと見なす。

iii 慣用表現として**S + V～というものではない**がある。

iv 反対のことを述べ、「しかし」という否定の意味で使いたいときは、その接続として「もの」を使う。

## ■日本語教育の視点から

様々な用法がある為、絞ってから徐々に教えていく必要がある。最も頻繁に用いられる「(名詞) というもの」「(述語) ということ」「(述語を含む文) ということ」がスタンダードになる。形のあるものが「もの」で形がないものが「こと」であるイメージは大切であるから、まずそのイメージを持ってもらうように教えるといいだろう。

執筆者

朴廷珍 伊藤貴祥 戎屋紘子 副田邦生 石田充 別所佑子 黄佳瑩 富田夏子

中村苑子 中村久子 森下泰行 加藤聖人 若月亜由美

編集者

田邊寿子

## 楽しさ・楽しみ、悲しさ・悲しみ

今回は、「楽しさ・楽しみ、悲しさ・悲しみ」の意味分析を通じて、接尾詞の「み」と「さ」の違いについて考察する。

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第四版)

#### 【さ(接尾)】

①〔形容詞・形容動詞の語幹などに添えて〕

…(の)程度・…であることの意を表す。「おもしろ―・静か―・金欲し―・に〔=ほしい・ので(余りに)〕やった事に違いない」

②〔雅〕とき。おり。「帰る―」

① 方言らしい感じを出すために使う語。「おらが国―で〔=自分の国で〕」

#### 【み(接尾)】

① 他のものに比べて一層そう感じられる状態であることを表す。「赤―・ありがた―・真剣―・軽―・重―」

② その状態を持つ部分であることを表す。「弱―・深―・高―」

③ 〔雅〕その動作・状態が反復して行われることを表す

④ 〔雅〕それを原因・理由とすることを表す。

**表記** ①②を「味」と書くのは。借字。

#### 【楽しみ】

② 楽しむこと。「読書の―〔=おもしろみ〕・老後の―〔慰め〕・子供を―に〔子供の成長を大きな目標として〕生きる」

③ それを見たり聞いたりなどして楽しむもの。「読書を毎日の―とする・何かと―が多い」

#### 【分析】

記載の辞書では、接尾辞「み」のつく名詞形は「楽しみ」のみ単独で記載しており、他はすべて動詞の派生形として載せている。「楽しさ」「悲しさ」は共に「形容詞およびいわゆる形容動詞に基づく派生形(p.3)」として記載されており、「悲しみ」は「悲しむ」の名詞形としている。

接尾辞の「さ」と「み」の辞書記載の意味を比べてみると、両方とも「～であること、その状態」という意味を持っているが、「み」は「さ」に比べて主観的な要素が強いことがわかる。「み」には「他のものに比べて一層そう感じられる状態」という定義がなされてお

り、個人によって感じ方は違うことから、「み」は主観的な要素が強いと言える。

## ■用例分析

例1) 明日のパーティが楽しみです。×楽しさ

例2) 君がパーティに来てくれれば、楽しさ倍増だよ。×楽しみ

例3) 深い悲しみに包まれる。×悲しさ

例4) お会いできるのを楽しみにしています。×楽しさ

これらの語が、形容詞→動詞→名詞という順序で派生していくという仮定にたって考えてみたい。形容詞から派生した名詞のうち、接尾辞「み」のつくものがある場合は、必ず接尾辞「さ」もあるが（例：苦しみ&苦しさ、弱み&弱さなど）、逆に「さ」があるからといって「み」があるとは限らない（例：軽さ○軽み×、寒さ○寒み×など）のはなぜだろうか。

楽しい→楽しむ→楽しみ（名詞）

↓

楽しさ（名詞）

楽しみ： 動詞「たのしむ」の連用形の名詞化

楽しさ： 形容詞「たのしい」の語幹に接尾語「さ」がついたもの

現代の日本語の形容詞はすべて「い」で終わり、「い」をとり、「さ」をつければ、形容詞は名詞化されるので、語形変化は1対1対応になりやすい。それに対し、「～み」という名詞形が生成されるのに、『～しい（形容詞）』⇒『～しむ（動詞）』⇒『～しみ（名詞）』というように、2段階のステップを踏まなければならないとすると、動詞『～しむ』をはさむ分、生成の自由度が制限されるのではないだろうか。

→派生については付録参照

## ■考察

### 視点①主観と客観

【～み】という言葉は主観的な感情を表す事が多く、【～さ】は客観的な事柄を表すことが多い。「楽しみ」が「楽しむ」という動詞から派生したものであるとすれば、「楽しむ」という非常に個人的で主観的な言葉だということになる。人それぞれで異なる個人的で主観的な感情を表す時に「楽しみ」を使うと思われる。

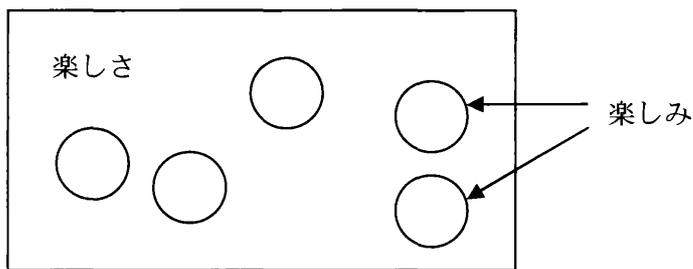
一方「楽しさ」は、客観的な事柄を表す事が多い。自分の内面を外に出して、それを一般化したもの、つまり誰もが共感できるような事柄について「楽しさ」を使うのではない

だろうか。

よって、「ショッピングの楽しさ」について話す時と、「ショッピングの楽しみ」について話すときでは話の内容が変わってくる。「楽しさ」について話す時は、自分がショッピングをする時のほかにも、他人がどう楽しんでいるかという事についても話さなければならない。しかし、「楽しみ」について話す時には自分がどう楽しんでいるかを話すので、個人的な体験談を話すことになる。

「楽しみ」は形容詞「楽しい」が表す実態そのものを指すと考えられる。つまり「楽しみ」で表されるものは「楽しいことそのもの・内容」であり、「弱み」ならば「弱いことそのもの」、「赤み」なら「赤いことそのもの」である。つまりその形容詞の実態を「～み」で表している。

主観と客観という視点からみると、「～さ」と「～み」の関係は以下のように考えられる。つまり、例3にもあるように、「楽しみ」という主観的な視点が集まって、「楽しさ」という大きな集合体を成すのである。「楽しさ」の中に「楽しみ」が含まれており、この二つは包括関係にあるといえる。



### 視点②程度

辞書の記載にもあるとおり、「～さ」は程度を表す。「楽しさ」や「悲しさ」と言った場合は「どの程度」楽しいのか、悲しいのかという事を表す。特に、「楽しさ」ではその傾向が強いと言える。例えばキャッチコピー「楽しさ倍増、楽しさいっぱい」ではどの程度楽しいのかを表している。

「悲しさ」についても、「友を失った悲しさを知る人はやさしくなれる」のように程度を表すものとして用いることができるが、例えば、「深い悲しみにくれる」のように「～み」の方が多く使われる。そこでは「深い」で「悲しい程度」が表されている。「～さ」は程度を表すことから、「深い悲しみにくれる」とは言えない。

### 視点③時間軸

「～が楽しみだ」や「～を楽しみにする」は固定された言い方で、上記の「～み」とは一線を画すようだ。例えば「将来が楽しみだ／将来を楽しみにしている」というのは、「晩酌が楽しみだ」の「楽しみ」とは違い、これから来るべき事柄を待ち望む気持ちを表す表現である。ここでいう「楽しみ」は、将来について言及するときに使う。例えば、「明日の

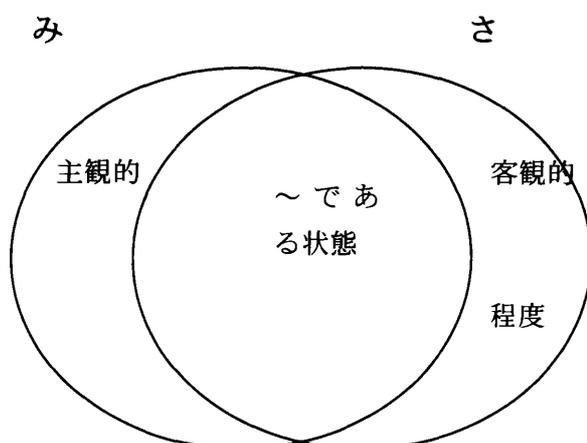
遠足が楽しみです」や「お会いできるのを楽しみにしています」という文では、将来について述べている。このような固定された「楽しみ」は、将来や未来といった時間軸を見る必要があるだろう。

## ■まとめ

辞書での定義や用例分析から、接尾辞「～さ」と「～み」については、両者とも元になる動詞の「状態」や「そうである様子」（「楽しい」なら楽しい様子、「悲しい」なら悲しい様子）を表す事は違いない。その違いについては

- ① 主観・客観
- ② 程度
- ③ 固定表現（時間軸）

という面において違いがあるという事がわかった。これを図で表すと以下ようになる。



## ■日本語教育の視点から

「楽しみ」という語は出現頻度が高く、日本語学習者にとって早く使えるようになりたい言葉の一つだと思う。一方、「悲しみ」「楽しさ」「悲しさ」などは「楽しみ」に比べて出現頻度が低く、初級日本語学習者にとってさほど必要だとは思えない。よって、固定表現である「楽しみ」という言葉を最初に教え、接尾辞「～さ」と「～み」の違いについては、中級以上における説明とすべきだろう。固定表現の「楽しみ」という言葉を教える時には、それが未来や将来について話す時に使う事を教える必要がある。中級レベル以上では、接尾辞「～さ」と「～み」の主観・客観の違いや、「～さ」が程度表現となることを導入する必要があると思われる。

## ■付録：「しむ」の由来

<仮定>

楽しい→楽しむ→楽しみ

↓

楽しさ

＜検証＞（以下 小学館『古語大辞典』より）

しむ {助動詞マ下二型}

活用語の未然形につく。

- ① 他に動作をさせる意（使役・他動詞）を表す。・・・せる。・・・させる。
- ② 尊敬の同士とともに用いて、さらに尊敬の意を高める。・・・なさる。・・・あそばす。
- ③ 謙譲の動詞とともに用いて、さらに謙譲の意を深める。

語誌：奈良時代に①の意味で盛んに用いられた。②や③の用法は平安時代に至って生じた  
が、この期には①の意では、もっぱら漢文訓読文に用いられ、和文では一般に「す」「さす」  
が用いられた。鎌倉時代以降に至り、再び①の意味で、軍旗物語や説話集などに頻出し、  
文章語や所管用語として命脈を保った。

しむ {助動特殊型}

（四段・ナ変活用の動詞の未然形について）尊敬の意を泡ラス。・・・なさる。

語誌：「しも」と道元。行われた時代や意味用法も大差なく、「しも」の揺れの語形とみる  
こともできる。「しも」に比べて用例は少ない。

⇒関係なさそう。

楽し {形容詞シク活}

- ①（精神的に満ち足りて）快い。愉快だ。気持ちが良い。日本書紀、古語拾遺
- ②（物質的に）裕福だ。豊かだ。今昔、日葡辞書

語誌：上代では、肉体的な快感や飽満感を表すのに用いた用例が多く、満腹感を表した  
ものなどが目立つ。古語拾遺に「あな面白し、あな楽し」とあるが、この「楽し」は肉体  
の快感で、「面白し」とは意味領域を異にする。中世語の「楽し」は「貧し」の対。金銭  
や物質の豊富なことをいう例が多い。

楽しむ「自バ四」《形容詞「たのし」＋接尾語「ぶ」古くは上二段か》「たのしむ」に同じ。

宇津保、今昔、徒然草

楽しむ I.「自マ四」

- ① 楽しく思う。愉快に思う。 方丈記、
  - ② 富み栄える。豊かに富む。西域記長寛点、平家物語
- II.「他マ四」 楽しく感ずる。興味を感ずる。徒然草

たのしび（動詞「たのしぶ」の名詞形）

快楽。楽しみ。 書紀（快 タノシビ）。古今・仮名序、今昔

### ぶ「接尾バ上二型」 (び・び・ぶ・ぶる・ぶれ・びよ)

{体言・形容詞の語幹などについて} そのような状態になる。そのような状態で振舞うの意を表す。

例) 哀れぶ・怪しぶ・荒ぶ・翁ぶ・大人ぶ・殊更ぶ・高ぶ・尊ぶ・鄙ぶ・雅ぶ、など

### さ「接尾」

- ① 形容詞・形容動詞の語幹に付いてそれを体言化し、そういう状態や全体を体言化して詠嘆表現となることが多い。「青柳の糸のくはしさ」万葉、「細谷川のさやけさ」古今
- ② 名詞に付いて方向の意をそえる。
- ③ 移動の意を表す動詞の終止形に付いて移動の途中にあることを表す。・・・しな。・・・するとき。

### 文献の成立時代：

徒然草：1331 頃

方丈記：1212 頃

宇津保 平安期

今昔 平安期

平家： 鎌倉

西域記長寛点：1163

拾遺和歌集：平安期

日本書紀：720

記＝古事記：712

### <考察>

たのし → たのしぶ (たのし+ぶ) → たのしび

↓

たのしさ (たのし+さ)

助動詞「しむ」は尊敬や使役の意味を持っており、「たの+しむ」という風に考えるのは難しい。また、「たのし+む」と分解したとしても、助動詞「む」は活用形にしかつかず、形容詞のあとにはつかない。よって「たのし+ぶ」の「ぶ」が「む」に変化して「たのしむ」となったのではないかと考える。現在の「たのしみ」も同じように「たのしび」が変化したものだと思う。「たのしび」という言葉は、720年ごろに成立した日本書紀にも出てきており、「たのしぶ」の名詞形という変化はかなり古くからあることが分かる。

次に「かなし」を見てみたい。「かなしぶ」「かなしび」「かなしむ」「かなしみ」「かなし

さ」の全てが載っている。「かなしさ」とは、「かなし」の語幹に接尾語「さ」がのついたものだという。「かなしぶ」は「かなし」の動詞化で上代語だという。「かなしむ」の欄には『『かなし』の動詞化。上代には、形容詞から派生した他の動詞と同じくバ行上二段の『かなしぶ』が用いられた。中古にはバ行四段に活用することが多くなったが、のち、次第にマ行四段に活用するものの勢力が強まり、もっぱらこちらを用いるようになった。『名義抄』などには「かなしぶ」が多いが、『節用集』になると圧倒的に「かなしむ」の訓のほうが多くなる。」(角川古語大辞典第1巻)

「あやし」に関しては、両方とも「あやしむ」「あやしぶ」「あやしみ」「あやしび」の全てが載っている。「あやしむ」は『『あやし』の動詞化』となっており、「あやしみ」は『『あやしむ』の名詞形』という風に載っている。(角川古語大辞典)

よって、「たのし」「かなし」「あやし」については、仮定で述べた1段階の変化、2段階の変化という説が当てはまると思われる。

#### 参考文献：

- ・ 中村幸彦、岡見正雄、阪倉篤義 編(昭和57年)『角川古語大辞典 第一巻』 角川書店
- ・ 中田祝夫、和田利政、北原保雄 編(1989)『古語大辞典』小学館

執筆者

別所佑子

編集者

四元憲太郎

## ゆがみ・ひずみ

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### ゆがむ【歪む】(自動詞五)

- ① 押されたり引っ張られたりなどして、そのものの形が変わる。「ネクタイがゆがむ」
- ② 心や行いが正しくなくなる。「ゆがんだ根性」

#### ゆがみ【歪み】(名) 「人間関係のゆがみ」

#### ゆがめる【歪める】(他動詞下一) 「顔・口・唇をゆがめる」

#### ひずむ【歪む】(自五)

外力が加わって、その部分だけ沈んだり膨れたりして、全体として正しい形が失われる。「ボリュームを上げると高音がひずむ」

#### ひずみ【歪(み)】(名)

- ① ひずむこと(程度)。「誤って、権力者側によるしわよせの意にも用いられる。」  
「高度経済成長のひずみに泣く中小企業」
- ② 「物理で」物体に外力が加わったときに起こる、長さ・体積・形などの変化。  
「ディスプレイにひずみが生じる。」

この両者は漢字で書くと「歪み」となり同じである。辞書より両者に共通する意味は、“物体に外力を加えたときに生じる伸び縮み、ねじれなどの変化”である。その他に「ひずみ」は“あることの結果として表れた悪い影響、弊害、しわよせ”などを表す際に用い、「ゆがみ」は“よこしまなこと、不正”などを表す際に用いる。

また、「ゆがむ」の他動詞「ゆがめる」に対して、「ひずむ」には他動詞が存在せず、人間がその動作の主語になることはない。そのため「ゆがむ」はときとして人間が意図的に外力を加えることによって物質を変形させるときにも用いられるが、「ひずむ」はあくまで人間の意志の介さない外力によって物質が変形する際に用いられる。「ひずむ」にマイナス印象が強いのはそのためだと考えられる。

### ■用例分析

#### ・両方使える場合

「画面のゆがみ、ひずみ」

「精神のゆがみ、ひずみ」

#### ・「ゆがみ」のみ

「ゆがんだ人間関係」  
「背骨がゆがむ」  
「性根がゆがんだ男」  
「あまりのにおいに鼻をゆがめる」  
「列のゆがみ」

・「ひずみ」のみ

「人間関係に生じたひずみ」  
「高度経済成長のひずみに泣く中小企業」  
「このスピーカーは音がひずむ」  
「崖のひずみ」

## ■ 考察

### 視点①変形のイメージ

物理的変形に注目すれば、「ゆがみ」は凹凸を指し、「ひずみ」は断裂を指す。

物理的変形において、「ひずみ」は主に、地形の変形を表す時に用いられる。「崖」や「地層」、「プレート」といった単語に結びつく。これらは地球がいくつかのプレートで構成されているというプレート理論の通り、プレートが乗っているマンツルの動きによってずれ込んでいくという「ずれ」の概念から共通する単語である。また「せん断ひずみ」という語があるように、2つに切られたモノについて用いる。

ただし、「ゆがみ」と「ひずみ」が同じ漢字を用いていることもあり、同一視して誤用してしまうことも多いようである。「ひずみ」がよく使われる「ゆがみ」の意味で用いられることがあっても大した違和感がないのはその為である。今後、「ひずみ」が「ゆがみ」と同じ意味を持ち、差異がなくなっていくかもしれない。

### 視点②状態か、因果関係か？

「ゆがみ」「ひずみ」はどちらも形が変化する、という共通軸を持っているが、それぞれのことばを使うとき、形の変化そのものに着目するか、形の変化したプロセスに着目するかが異なっていると考えられる。

「ゆがみ」の用例としては「柱にゆがみができる」、「列のゆがみ」などがあり、動詞の「ゆがむ」で使うと「窓枠がゆがむ」、「物がゆがんで見える」などのように使われている。これらの例は、すべて柱や列、窓枠が正常な状態でなく、特に曲がっている状態を表しており、“どうしてゆがんだのか”という因果関係には着目していない。抽象的な表現だと、辞書の意味では「心の行いが正しくなくなること」となっている。用例を見ると「性根がゆがんだ男」「心のゆがみを直す」などがある。しかしこの場合も「柱」や「列」の例と同じく“考え方や行動が正常ではなくなった”状態を表している。

それに対して「ひずみ」の用例「崖のひずみ」を考えると、崖はなかなか自然には変化し

ないもので、“外から力を加えて変化した”ということ強く感じる。また「人間関係に生じたひずみ」「高度経済成長のひずみに泣く中小企業」「このスピーカーは音がひずむ」という用例からも“正常でない曲がった状態”そのものよりも“外力を加えられた結果が良くない”ということ強調している。これらは単に今の悪い状態、正常ではない状態を表したいのではなく、その結果を引き起こしてしまった原因を含めた、因果関係に着目しているのであると考えられる。

## ■まとめ

「ゆがみ」も「ひずみ」も、どちらも“正常ではなくなってしまったものの形や状況の変化”について使う表現である。どちらの表現を使っても、“変化を引き起こした原因”は存在するし、“正常ではない状態を表す”ことに変わりはない。しかし「ゆがみ」は、より今の正常ではないその状態を強調し、「ひずみ」は、それはある外力を受けて変化した結果なのだ、ということ強調している。

したがって「背骨」「鼻」「性根」「列」においてゆがみを使う方が好ましいのは通常、変化の生じた過程や原因ではなく、変化が起きたこと自体に着目するからである。同様に「ひずみ」を使った場合、着眼点は“何によって”に移る。そのため「ひずみ」の用例では社会制度や音など外力が多岐にわたり、かつ通常は変化しづらいと考えているものに起こる変化に使われることが多い。

## ■日本語教育の視点から

イメージとしての「ゆがみ」と「ひずみ」を図で印象づけるとよい。「ゆがみ」は凹凸、「ひずみ」は———のようなずれのイメージがよい。

「ゆがみ」「ひずみ」は基本的にどちらも「外力によってもたらされた形や状況の変化」を表すため、日本語学習者にその違いをはっきりと分からせることは困難であると思われる。導入の仕方としては、「箱がゆがむ」「顔がゆがむ」などの目に見えてわかる例文から「ゆがみ」の用例に触れ、同じ形の変化でも社会制度の要因による状態の変化、音響や画像などの個人の直接の力ではその場で変えられないものを紹介して「ひずみ」の意味について理解してもらえたら良いと思う。しかし日常的に使うのは「ゆがみ」のほうであると思うので、中級以上の学習者には積極的に「ゆがみ」をつかった慣用表現（「あまりのにおいに鼻をゆがめる」、「心のゆがみ」）を教えていくと良いのではないだろうか。

執筆者

朴廷珍 伊藤貴祥 別所佑子 副田邦生 石田充 黄佳瑩 富田夏子 中村苑子  
中村久子 森下泰行 加藤聖人 若月亜由美

編集者

庄司由香里

## 思う・考える

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第四版)

#### 【思う】

1. 外界から受けた刺激がもとになってなんらかの感覚が生じたり情意を抱いたりしたことを意識する。 「これぞと思う相手」「結果を不満に思う」
2. 感覚に頼って、判断する。 「あすは雨だと思う」
3. そのものに絶えず心が惹かれる。 「故国を思う」「親を思う子」

#### 【考える】

1. 経験や知識を基にして、未知の事柄を解決(予測)しようとして、頭を働かせる。 「いいと考える」「人の立場を考える」
2. 相手や将来の事について思いをめぐらす。 「将来を考える」
3. 新しい物を作り出す方法や考えを思いつく。

### ■用例分析 ×は非文

「考える」が使えて「思う」が使えない例

「さあみんなで考えよう」(×「さあみんなで思おう」)

「数学の問題の解き方を考える」(×「数学の問題の解き方を思う」)

「納得のいくまで考える」(×「納得のいくまで思う」)

「思う」が使えて「考える」が使えない例

「捨て犬を見てかわいそうだと思った」(×「捨て犬を見てかわいそうだと考えた」)

「思う」と「考える」が両方使えるが、意味が変わる例

「子どものことを思う」→子どもの身の上を心配したりする(【辞書記載の意味】1.)

「子どものことを考える」→子どもの様子などに思いをめぐらす(【辞書記載の意味】2.)

### ■考察

#### 視点①感情と理性

「思う」という言葉は「心で感じる」に近い。瞬間的に、自然に湧き出た感情的なもの

そのままを指す。外からの刺激で生ずる受動的な行為で、体験が個人的であるため、「みんなでおもう」などのように一般化することはできない。3. の意味での「思う」は例えば「心配する」「大切に感じる」などの言葉と置き換えられることでも分かるように、理論的でなく、個人的な行為であるという点で1. 2. と共通している。

一方「考える」というのは「頭を使う」ことを意味する。心に浮かんだ思いを客観的・理性的に組み立てたり、それによって何らかの結論を導いたりすることを指す。もともと持っている知識やその場の感情を前提に理論的に物事を判断し、理論の組み立て方などを他人と比較することができる。

### 視点②活用の有無

辞書記載の意味の中で扱わなかったものとして、「さあみんなでおもう」という表現に見られる「思う」と「考える」の違いがある。「考える」は未来形で「考えよう」と言うことができるが、「思う」は「思おう」と活用させることができない。「これから～について理論的に判断しよう、考えてみよう」と計画することはできても、何を「思う」かはその場にならないと分からないので「これから～と思うことにしよう」と決めたりすることはできないからだ。ただし、「Aという場面ではBと思うことにする」と意図的に自らの感情を操作する意志がある場合には「～と思おう」と表現することがある。

### ■まとめ

概して、「思う」は主観的・抽象的・情緒的であるのに対し、「考える」は客観的・具体的・理性的であると言える。ある物事に対して漠然としたイメージを抱いたり、心の中で特にはっきりとした目的なしに気持ちを練り広げたりすることを「思う」と言い、何かははっきりとした目的に向かって答えを出そうとする働きを「考える」と言う。言うなれば、思うときには「心」に重点が置かれており、考えるときには「頭」が働いているのである。

また、「思う」と「考える」では日常的な使い方の違いもある。日常会話においてあえて理論的な思考過程があることを表現したい場合には「～と考えた」と使うこともあるが、それ以外の場合には、例えそれが厳密には「考えた」ことであっても、「思う」を優先的に使うことが多い。一方、論文や発表などフォーマルな場では「～と思う」と言うよりも「～と考えた」と言う方が好ましいとされている。これは、「思う」という言葉は気軽で曖昧・控えめな言い方であるのに対し、「考える」は日常会話では堅苦しい印象を受けやすく、主張的な言い方であるからだと考えられる。

### ■日本語教育の視点から

日本語を母語としない学習者に「思う」と「考える」の違いを説明する際には、まず2語の基本的な辞書的意味の違い（「思う」1. 2. 「考える」1. 2. を比較）を指導し、例文などを通して使い方を練習させていけばいいのではないだろうか。その後、日常的な会話

の中ではたいていの場合「～だと思ふ」と言う方が自然であること、また公式な場では逆に「～だと考えます」と言う方がふさわしく、相手に強く主張が伝わることを教えておくべきだろう。

「思ふ」と「考える」、それぞれの特殊な意味（「思ふ」3.「考える」3.）での使い方は、初めのうちはより分かりやすい表現（「親を思ふ子」→「親を大切に感じる子」、「新しい料理を考える」→「新しい料理を思いつく」）を使って指導した上で、「思ふ」「考える」に置き換えて表現することもできるということを上級者にのみ指導すべきではないかと思う。

執筆者

内山恵

編集者

武政美希

## 走る・駆ける

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

- 走る** ① (人間・鳥獣が) 足で地面を蹴るようにして速く移動する。  
例：遅れそうなので駅まで走った  
      トップを走るランナー
- ② (ある程度の速さを持続させて) 流れるようになめらかな動きで移動する。  
例：電車が走る  
      獲物めがけて走るヘビ  
      岩の上を走る水
- ③ 一方の端を起点として線上に伸びた状態にある。  
例：町の中央を東西に走る大通り
- ④ 自制心が働かず (慎重に考える余裕を失い) 好ましくない方向に進んだ状態になる。  
例：議論が極端に走る
- 駆ける** (はずみをつけるようにして足を動かし) 目的地まで (他より) 速く行こうとする。  
例：野を駆ける馬

### ■用例分析

#### 両方使える場合

- ◎グラウンドを走る / ◎グラウンドを駆ける  
◎草原を走る / ◎草原を駆ける  
◎子供が走ってくる / ◎子供が駆けてくる

#### 走るのみ使える場合

- ◎電車が走る / ×電車が駆ける  
◎教室の中を走る / △教室の中を駆ける  
◎非行に走る / ×非行に駆ける  
◎痛みが走る / ×痛みが駆ける

◎稲妻が走る / ×稲妻が駆ける

◎ビルの間を高速道路が走る / ×ビルの間を高速道路が駆ける

#### 駆けるのみ使える場合

×時を走る / ◎時を駆ける

×時代を走る / ◎時代を駆ける

×走り足 / ◎駆け足

### ■考察

#### 視点1. 「走る」用法の広さ

「走る」、「駆ける」はどちらも、人や動物が速く移動する意味をもつ。

しかし、「走る」はそれに加えて、「痛みが走る」、「稲妻が走る」というように、事物が素早い動きをしている様子を表わすことにも使うことができる。更に、「電車が走る」のように、乗り物が速く進む意味でも使えるが、道や線が延びる様子を表わすことにも使える。また、それ以外にも「走る」は、「非行に走る」のように、人の行動が好ましくない方向へ傾く様子を表わすこともできる。

以上のように、「走る」は「駆ける」に比べ、汎用性が高く、日常会話で多く用いられる傾向がある。

#### 視点2. 速さ

「走る」と「駆ける」が、人や動物が速く移動する意味である場合、「駆ける」の方が「走る」よりスピードが速い印象を受ける。（「運動場を走る」・「運動場を駆ける」）

「走る」は、速さにこだわらず、歩く速さよりも速ければ「走る」と言えそうだが、「駆ける」場合には、歩くより少々速い程度で「駆ける」とは言わず、疾走する位のスピード感があることが必要ではないかと思う。複合語でも「駆け回る」「(頭の中をさまざまな考えが)駆け巡る」や「(避難所に)駆け込む」などのように「速さ」を連想させる語がある。

(\*「駆」はもともと、馬が速く進む意味で、それが人や動物に使われるようになった)

#### 視点3. 広さ

「教室の中を走る / △駆ける」の文を比べてみると、「教室の中」には「駆ける」よりも、「走る」の方が合う。「家の中を走る / △駆ける」という文をみても、「家の中」には、「走る」の方が「駆ける」よりも、当てはまる。「草原を走る / 駆ける」の文では、「走る」でも「駆ける」でもどちらでも文に合う。

このことから、「駆ける」場合には、ある程度の広さをもった場所の方が当てはまる。もともと狭い場所を全力で移動するということはないので、視点2から派生した視点とも考えられる。

## ■まとめ

「走る」・「駆ける」・・・人や動物が足で速く移動する様子を表わす

「走る」・・・乗り物が速く移動する様子を表わす

事物が素早い動きをしている様子を表わす

道や線が延びる様子を表わす

人の行動が好ましくない方向へ傾く様子を表わす

速さ： 走る  $\leq$  駆ける

動き回る場所の広さ： 走る  $\leq$  駆ける

## ■日本語教育の視点から

「走る」が多くの意味をカバーしていることから、初級の段階では、「走る」の基本的な使い方をしっかりと覚えてもらうのが良いと思う。基本的な意味（人や動物が足で、また乗り物が速く移動する様子）を覚えてもらったうえで、事物が素早い動きをしている様子や、道や線が延びる様子を表わす意味を示したり、人の行動が好ましくない方向へ傾く様子を示すのがよいと考える。その上で、「駆ける」を教えていけば良いのではないかと考える。

執筆者

中田芽衣

編集者

佐々かおり

## ひがむ・そねむ・ねたむ

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 【ひがむ】

曲解して、自分ばかりが損な(低い)立場に立たされていると思ひ込む。

#### 【そねむ】

自分にはそれが望み得ないことを不満に思い、相手に悪い事が起こればいいと思う。

#### 【ねたむ】

他人の幸運・長所をうらやんで、幸福な生活のじゃまをしたく思う。

### ■用例分析

#### ひがむ (ひがみ)

- ×二人の仲をひがむ。
- 二人の仲を知ってひがむ。
- 兄ばかりお年玉が多いので、弟がひがんでしまった。
- 彼の態度は友人の成功に対するひがみだ。
- 人の言葉をひがんで考える。

#### そねむ (そねみ)

- △彼の態度は友人に対するそねみだ。
- 彼らは君の昇進をそねんでいるのだ。
- ×二人の仲をそねむ。
- △兄のお年玉の多さをそねむ。

#### ねたむ (ねたみ)

- 彼の態度は友人に対するねたみだ。
- 二人の仲をねたむ。
- 彼は仲間の出世をねたんだ。
- △兄のお年玉の多さをねたむ。

## ■考察

### 視点①自動詞か他動詞か

「ひがむ」「そねむ」「ねたむ」に共通する要素は「自分と他者を比較し、なんらかの負の感情を抱く」ということである。しかし他動詞である「そねむ」「ねたむ」に対して「ひがむ」は自動詞であり、対象として目的語をとらない。

### 視点②思い込みの有無

辞書的な意味を参考に考察すると、「ひがむ」は他者と自分との関係において「自分が他者よりも劣る」状況にあるという「思い込み」としての要素が強く、このとき実際に他者が自分と比べて幸福な境遇であるかどうかはさほど重要ではないと考えられる。いかなる状況であれ、それを曲解し、自分が不利な状況にあると思い込むのが「ひがむ」である。

「そねむ」「ねたむ」は思い込みではなく、他者と自分の差異を正確に把握した上で、相手に負の感情を抱く。

### 視点③抱く感情

「そねむ」「ねたむ」は自分が欲するものを持っている特定の他者の存在が対象として重要となる。ともにそうした幸運や長所をもつ対象に対して「うらやむ」感情を基本にもつ言葉であると思われるが、その違いは辞書的な意味からだけではわかりにくい。強いて違いをあげるとすれば、対象に抱く感情の違いについての記述である。

「ねたむ」からは「邪魔をしたく思う」という「うらやむ」という感情から主観的情動的な感情が読み取れるが、「そねむ」には「他人の幸運や長所が、自分には望み得ない」や「悪いことが起こればいいと願う」といったように、他者が自分の意思ではいかんともしがたい幸運、長所を持っており、その不幸を願うより自分の「うらやむ」感情を処理することができない、といった印象がある。「そねむ」は「うらやむ」＋「うらむ」といった意味合いが強いのではないだろうか。少なくとも、「ひがむ」には「うらみ」の要素は感じられない。

## ■まとめ

三つの言葉に共通する要素は「他者と自分を比較して、なんらかの負の感情を抱く」ということである。辞書的な意味、用例分析、漢字の意味から、三つの言葉の違いを考察してみると以下のようなになる。

- ・「ひがむ」 ……物事を曲解して他者よりも自分が不幸な境遇にあると思い込む。実際に自身が他者よりも不幸であるかどうかは然程重要ではないと考えられる。

- ・「そねむ」・・・他者が自分に望み得ない幸福を持つことを不満に思い、その不幸を願う。子供を主語にして使われることは少ない。相手の不幸を願うといった他力本願な姿勢から、自分から遠い幸福をうらやむことと考えられる。幸福に対する諦めと幸福への欲求を同時に内包し、「うらみ」や「にくみ」に近い感情を抱く。
- ・「ねたむ」・・・他者の幸福な様をうらやんで、その幸福の邪魔をしたいと思う。子供を主語にして使われることは少ない。「そねむ」よりも主観的、情動的願望の現れとして、身近な幸福においても用いられると考えられる。また、他の男女の仲をうらやむ場合に「妬」の漢字を用いて表される。

#### ■日本語教育の視点から

「ひがむ」と「そねむ」「ねたむ」との違いは、辞書的意味や用例からもすぐに見分けることができそうだが、「そねむ」は現在、私達にとって耳になじみのない言葉となっているため、「そねむ」と「ねたむ」の間の区別は日本語を母語とする人にとっても難しいものがある。「そねむ」と「ねたむ」を区別するとなると、鍵となるのはやはり「自分と他者の幸福の距離」と「男女の仲に対して用いるかどうか」であると考えられる。

執筆者

朴廷珍 伊藤貴祥 戎屋紘子 別所佑子 副田邦生 石田充 黄佳瑩 中村苑子

中村久子 森下泰行 加藤聖人 若月亜由美 内山恵

編集者

田邊寿子

## 煮る・炊く・ゆでる・ゆがく

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 【ゆでる】

熱湯の中に入れて、しっかりと加熱する。うでる。

#### 【ゆがく】

野菜のあくを取るために、さっと湯を通す。

#### 【煮る】

永代の中へ入れ、熱を通して柔らかく（どろどろに）する。

#### 【炊く】

- ① 水につけた米に熱を加えて食べられる状態にする。
- ② 〔近畿・中国・四国・九州北部の方言〕煮る。

### ■用例分析

#### 【煮る】と【炊く】

##### 煮るのみ使える場合

- ◎さばの味噌煮 ×さばの味噌炊き
- ◎煮込みバンバーグ ×炊き込みハンバーグ
- ◎煮汁 ×炊き汁
- ◎豆を煮る ×豆を炊く

##### 炊くのみ使える場合

- ◎炊き込みご飯 ×煮込みご飯
- ◎ご飯を炊く。 ×煮る

#### 【ゆでる】と【ゆがく】

##### 両方使える場合

- ◎ほうれん草をゆがく。 ◎ほうれん草をゆでる。

##### ゆでるのみ使える場合

- ゆでだこ ×ゆがきだこ

## ■考察

### 視点①調理の目的・液体の種類

「煮る」「炊く」「ゆでる」「ゆがく」のいずれも「材料に火を通す」という点では共通しているものの、その他に目的があるかどうかという点で異なってくる。「炊く」「ゆでる」の場合、他の目的は特にない。一方、「煮る」には「味付けをする」、「ゆがく」には「あくを抜く」という目的が加わる。

このような調理目的から、液体の種類が導き出される。「炊く」「ゆでる」では材料を単にやわらかくすることが重要なため水（湯）が用いられる。「ゆがく」にしても、あくを抜く際に必要なのは水（湯）である。しかし、「煮る」では使う液体によって料理の味が変わってくるため、材料につけたい味（甘み、辛みなど）によって液体を変える。つまり、この場合の液体はあらかじめ味のついた（砂糖、醤油など溶質の混ざった）ものである必要がある。

### 視点②材料の種類・調理時間の長さ

「炊く」は米にのみ（方言によっては「煮る」の意味で使うと辞書にあるが、この場合は一般的な意味を扱うことにする）、「ゆがく」は「さっと湯に通す」程度で火が通る野菜、つまり葉物に限定される。その他に液体によって火を通す行為が「煮る」と「ゆでる」のどちらかに分類されるが、材料を特に限定する条件はない。

調理時間については長い順に「煮る」「炊く」「ゆでる」「ゆがく」と並べることができる。あくを抜くことが目的の「ゆがく」は比較的調理時間（材料が水（湯）の中に入っている時間）が短い。「ゆでる」では材料に火が通ればよいので「ゆがく」より調理時間は長いものの、「煮る」の場合は材料に液体の味がつくまでにある程度時間がかかるため以上のような順番になる。また、「炊く」が対象にしている米は火を通すのにある一定の時間がかかるが、火を通すことのみが目的のため「煮る」ほど長くはならないと考えられる。

### 視点③調理後の液体の残り具合

「ゆでる」「ゆがく」では材料に火が通る過程で、ある程度水分が使われる。しかし材料が熱湯の中に浸かることで火を通す目的が主であるため、水分が全て材料に浸透することはない。また、残った水分は料理の一部とはならない。一方、「炊く」は水分が全て米に浸透することで作業が終了する。「煮る」の場合、多少に関わらず液体が調理後に残るが、この液体は他の三語と違って料理の一部として扱うものである。

## ■まとめ

辞書記載の意味でも分析を通して分かることは、「煮る」「炊く」は料理の中でも主となる作業を表すことが多いのに対して、「ゆでる」「ゆがく」は料理が完成するまでの一連の過程の中の一つの作業のみを表しているということである。それが「調理後の液体」の扱

いにもつながってくると考えられる。

「炊く」は方言によっては「煮る」の意味に該当するようだが、共通語としては米を炊く場合に限定される。「米を煮る」と言わないのは、一つには「米を炊く」という行為が特殊なものであるからではないかと推測される。米が「炊き上がる」までには「煮る」や「ゆでる」に見られる液体の沸騰のほか、「蒸す」などの経過をたどる必要がある。そのため、本来は他の三語と一括りにして考えることはできないのかもしれない。

「ゆがく」についてだが、この言葉は「湯掻く」と漢字表記するように、材料を湯にさっと通すことで湯があくを「掻き落とす」イメージが含まれている。しかし、最近では料理に関する場面で「ゆがく」という言葉を「さっとゆでる」などで代用することが多いため「ゆがく」が使われることは少なくなっており、その行為を理解することができる人が減っているのも現状としてある。

#### ■日本語教育の視点から

まず「煮る」「炊く」「ゆでる」の三語について、調理時間や材料などによる用法の違いを示すべきであろう。その上で、上級者にのみ「ゆがく」という言葉が三語に似たものとして存在することを教えるべきだ。ただし、現代において「ゆがく」は日常的に使われる言葉ではなくなっているため、「ゆがく」行為を表現するには「さっとゆでる」「さっと火を通す」などを使った方がよく、料理本などで「ゆがく」という言葉を見た時に理解できる程度にしておけば良いのではないだろうか。

執筆者

内山恵

編集者

田邊寿子

## 濡らす・浸す・漬ける

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第四版)

濡らす：(他五) 濡れるようにする。

→「濡れる」(自下一) ①水などがかかる(しみ込む)

②[口頭]情事を演じる・行う

浸す：(他五) その成分を帯びる程度に、液体・を十分含ませる(の中に入れる)

「ガーゼにアルコールを一」「足を水に一」

漬ける：(他下一) [保存を図ったり、成分をしみ込ませたりする目的で]その物全体を、液状の物や味噌・塩・砂糖などの中に入れておく。

### ■用例分析

<その①>

- ・ おひたし○
- ・ 漬物○

<その②>

- ・ 食器を水で濡らす○
- ・ 食器を水に浸す○
- ・ 食器を水に漬ける○

<その③>

- ・ 大根を味噌に濡らす×
- ・ 大根を味噌に浸す×
- ・ 大根を味噌に漬ける○

### ■考察

#### 視点①時間と浸透

おひたしは物質が液体中に置かれるのが数分から数時間なのに対し、漬物は数日から数週間以上かかるものもある。このことから、時間的視点から分析すると浸す<漬ける>という関係が導ける。またその動作後の浸透程度という点から分析しても浸す<漬ける>という関係が成り立つ。

また、③に関しては「漬ける」のみ使用可能だ。それは、例文中の大根の使用目的と関係する。大根に味をしみ込ませることが目的であるので、浸透程度がもっとも高い「漬ける」が適切なのだ。

## 視点②液体の付着する程度

その②の例文は3つ全ての言葉を使うことが可能である。「濡らす」場合は食器に水をかけたり付けたりする程度に対し、「浸す」は液体の中に、ある程度食器が入っている状態を示し、「漬ける」に至っては、食器よりも大きな容器に水を入れて、そこに食器が入っていないなければならない。ある対象物に水や媒体が付着する程度という点から分析すると、「濡らす」は媒体が対象物に付着する状態を指し、「浸す」は媒体が対象物に部分的に沈んでいる状態を表し、「漬ける」は媒体が対象物全体を覆う状態を指す。

### ■まとめ

「濡らす」

液体を対象物にかけて湿った状態にする。

「浸す」

液体中に対象物を部分的に入れる。短時間でもよく、時間には着目していないことが多い。

「漬ける」

液体や半固体の中に物質を長時間全部入れる。

### ■日本語教育の視点から

ボールや桶などの入れ物を用意すると教えやすい。「濡らす」は濡らすものを手から離さずにサッと水を通す動作で、「浸す」や「漬ける」は入れ物に溜まった水の中に濡らすものを入れる動作を行う。「浸す」と「漬ける」は水に入れている時間の差を表現してみせればよい。

執筆者

戎屋紘子

編集者

佐々かおり

## 冷える・冷める

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### さめる【冷める】

①(熱かったものが)熱い状態でなくなる。(高まった気持ちや興味が薄らぐ意にも用いられる)

例:熱意(情熱・興・ほとぼり)が――。

お茶が――

②本来の色が薄れる。また、その結果見劣りする。

(青ざめるはもともとこの意)

#### ひえる【冷える】

①冷たく(寒く)なる。また、そう感じる。

「身体が冷える/よく冷えた料理」

②それまでの盛り上がった状態や感情が失われる方向に傾く。

「関係が冷える/冷えた夫婦の仲/冷え切った景気」

### ■用例分析

#### 【両方使用可能】

- 関係が冷える / ○ 関係が冷める
- 飲み物が冷える / ○ 飲み物が冷める
- 溶岩が冷える / ○ 溶岩が冷める

#### 【冷える可能】

- 身体が冷える / × 身体が冷める
- 腰が冷える / × 腰が冷める
- スイカが冷える / × スイカが冷める
- ビールが冷える / × ビールが冷める

#### 【冷める可能】

- × 青びえる / ○ 青ざめる
- × 熱意が冷える / ○ 熱意が冷める
- × 熱湯が冷える / ○ 熱湯が冷める
- × 湯冷えする / ○ 湯冷めする

## ■考察

### 視点①常温になるか、常温より下の温度になるか

「冷える」も「冷める」も共に温度が下がることを言う。ただ、「冷える」は常温よりさらに下の温度になり、「冷める」は高温から常温に戻ることを言う。この常温の基準は、人の触感を基準にする。元の温度より下がり、その物体に触れたときに冷たいと感じる状態になることは「冷える」ということであり、温かく、またはぬるく感じる状態になることを「冷める」というのだと思う。

また「冷める」は温かい状態からの変化を前提としているため、スイカやビールなどのように、温かい状態にすることをしないものに関しては「冷える」のみ使用可能になっている。

関係などは触れることができないが、基準となる関係を設定し、それに比べ冷たいかどうかなどから関係が「冷える」、「冷める」などというのではないか。

### 視点②結びつく単語による用例

熱、熱湯、熱意、情熱などは「冷める」を利用する。熱という単語は結びつきやすい。

身体に関しては、体感温度で表す。腰や足が「冷える」のは、普段に比べ寒く感じるため、「冷める」のではなく「冷える」のだといえる。ただし、例外として「湯冷め」は身体が「冷える」ことだが「冷める」を使う。

## ■まとめ

さめる・・・高温から常温に戻る。(人がそれを)ぬるく感じる。

ひえる・・・元の温度より下がる。(人がそれを)冷たく感じる。

## ■日本語教育の視点から

「冷える」も「冷める」も共に温度が下がることを指すが、「冷える」は普段の温度よりさらに下がることを言い、「冷める」は温かい状態から普段の温度に戻ることを言うといえる。この普段の温度というのは人の触感をもとに判断しているといえる。そのためいくつか例外があるものの、まずは高温から常温に下がったのか、常温より下の温度になったことかどちらに着目するかで教えるのがよいと思う。

また、身体に関しては、その他の「冷える」「冷める」とは意味が異なって利用していると思われるので別に教えるべきだと思う。

執筆者 小杉崇文

編集者 上田智哉

## 過ごす・暮らす

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 【過ごす】

①時間を費やす。

「楽しい一時を過ごす/楽しい夏休みを過ごす/その日その日を過ごす」

②度を越して何かをする。

「酒を過ごす/一つお過ごし [=お飲み] ください」

#### 【暮らす】

寝たり起きたり食事をしたり仕事をしたり遊んだりなどして、一日(一日)を生きて行く。

「今まで何とか暮らして来た/自由気ままに暮らす/遊び暮らし」

### ■用例分析

#### 両方使える場合

- ・ 日本で過ごす。 / 日本で暮らす。
- ・ 友達と過ごす。 / 友達と暮らす。

#### 過ごすのみ使える場合

- ・ 誕生日を家族と過ごす。 ×暮らす
- ・ 学校で8時間過ごす。 ×暮らす

#### 暮らすのみ使える場合

- ・ 自分の国と違う文化に暮らす人々。 ×過ごす
- ・ (家を探している状況) どこで暮らすかまだ決めてない。 ×過ごす

### ■考察

#### 視点①場所にする意識

「過ごす」と「暮らす」の根本的な違いは、その場所に対する意識の違いである。「過ごす」場合は、その場所はいつか去る場所であり、ただの通過点にしか過ぎない。しかし、「暮らす」場合は、帰属意識があり、そこが自分の居場所として意識されている。例えば「アメリカで3年過ごした」と「アメリカで3年暮らした」とでは、受ける印象が違う。前者

の場合は、帰る場所が他にあって、アメリカで過ごした3年は人生の中でただの通過点にしか過ぎないというニュアンスがある。後者の方は、アメリカで根を下ろして生活したというニュアンスがある。

#### 視点② 時間の長さ

上述の意識の違いから、「暮らす」場合は、帰属意識が芽生えるくらいの期間が必要とされるため時間が長くなる。それに対して「過ごす」の場合は、時間は1時間でも1年でも使用することができる。

#### ■まとめ

・「過ごす」…場所は、単なる通過点の一部として意識されている。  
時間の長さに制約はない。

・「暮らす」…場所が、自分の居場所として意識されている。  
時間は、帰属意識が芽生える位の期間を必要とする。

#### ■日本語教育の視点から

「暮らす」も「過ごす」も二つとも同じような意味として認識されているが、「過ごす」という言葉を使う頻度が少ないため、「暮らす」という言葉を使ってしまう傾向にある。そこで、今回の視点で取り上げた、場所に対する意識と時間の長さの違いを理解してもらい、例文を挙げて使い分ける練習をしていくのが良いのではないだろうか。

執筆者

斉藤ゆり

編集者

田邊寿子

## 帰る・戻る

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 【帰る】

(一時的に)他の場所にいる人が出発した(本来身を置くべき)所に向かって行く。

「そろそろ会社から家に帰る時間だ/帰るべき家がない/船が港に帰ってきた/嘆いても帰らぬ年月/帰らぬ人となる/帰らぬ旅に出る」

#### 【戻る】

①他の場所に移動したものが、進む方向を逆にして元の所へと向かう(まで移動する)。

「あとに戻る/自分の席に戻る/この辺で戻った方がいい/流出文化財が祖国に戻る/落とし物が無事に戻る/冬に戻ったような寒さ/ふり出しに戻る」

②ある状態に変わっていたものが再び元通りの(望ましい)状態になる。

「エンジンの調子が元に戻る/意識が戻る/水に漬けた干椎茸が戻る/白紙に戻る」

### ■用例分析

#### 両方使える場合

- ・家に帰る。 / 家に戻る。
- ・日本に帰る。 / 日本に戻る。

#### 帰るのみ使える場合

- ・お客様が帰る。 △戻る

#### 戻るのみ使える場合

- ・遊園地に戻る。 ×帰る
- ・お金が戻る。 ×帰る
- ・よりが戻る。 ×帰る

### ■考察

#### 視点①習慣性

「帰る」と「戻る」の根本的な違いは、「帰る」は習慣的な動作に使われるのに対して、「戻る」は必ずしも当然ではない動作にも使われることである。「お父さんが家に帰ってきた」という文は、お父さんが仕事を終えて家に帰ってくるという日常的な行為を表している。しかし、お父さんが失踪して1年間ずっと家に帰ってこなかった場合は「お父さんが

家に戻ってきた」という文がよりしっくりくるように思う。

「里帰り」や「帰郷する」という言葉も、日常ではなくても年に何回かする習慣的な行為であり「帰る」というニュアンスが表れている。それに対して「出戻り」という言葉は、一度お嫁に行った娘が離婚して再び実家に来るという予想外の出来事であり、「戻る」というニュアンスが出ていると思う。「帰ってくる」ことは当然かもしれないが、「戻ってくる」ことは必ずしもそうでない、という見方がある。

#### 視点②場所

「帰る」と「戻る」は共に元にした場所への移動を意味するが、その場所には微妙な差異がある。「帰る」は“家”や“出生地”など自分にとって帰属意識がある場所であるのに対し、「戻る」は必ずしもそうではない。「帰る」場合、場所は生まれ育った国や実家、地元であり、遊園地や友達の家には帰らない。しかし「戻る」場合は一度行った場所であれば、交番でも富士山でもどこへでも戻ることができる。「お客様が帰る」と言った場合はお客様がその人の家に帰ることが容易に推測できるが、「お客様が戻る」と言うと、その人の家なのか、自分の所にまた来たのかがよく分からないので曖昧な表現になってしまう。

#### 視点③主語

「戻る」は主語に人と物の両方をとることができるが、「帰る」は人にしか使えない。「帰る」場合は、帰属意識を持った思い入れのある場所にしか行かないので、意思のある人間や動物などの生物だけに使えるのだろう。

#### 視点④状態

「戻る」は生物以外のものが主語になれるため、「記憶が戻る」、「いい関係が戻る」など場所以外にも、“状態”が元通りになることを表すことができる。

#### ■まとめ

- ・「帰る」・・・習慣的な行為。
  - 帰属意識のある場所にのみ帰る。
  - 主語は意思のある生物のみ。
- ・「戻る」・・・必ずしも当然ではない行為にも使える。
  - 一度いった場所にならどこへでも戻ることができる。
  - 主語は生物に限定されない。
  - 状態が元通りになることも表すことができる。

## ■日本語教育の視点から

「帰る」と「戻る」は共に日常生活の中でも使う頻度の高い言葉なので、初級者でもある程度理解しておく必要がある。教える手順としては、まず「帰る」を3つの軸（①習慣的な行為であること、②帰属意識のある場所にのみ「帰る」こと、③主語は生物に限定されること）に沿って例を出しながら説明する。そしてそこから広げて「戻る」にしか使えない場合を例に出しながら、「戻る」について説明し、2つの使い分けができるように練習していくのが良いのではないだろうか。

執筆者

富田夏子

編集者

田邊寿子

## 見る・見える、聞く・聞こえる

### ■辞書的な意味(三省堂 新明解国語辞典 第四版)

#### 「見る」(他動詞・上一段)

- ①目を対象に向けて、その存在、形、様子を自分で確かめる(\*覧る)  
例)「野球を見る(=見物する)」  
「本を見る(=Aながめる。B内容を(軽く)読む)」
- ②物事の状態を、調査、(観察、判断、評価)する(\*観る)  
例)「顔色を見る」「風呂をみる」「湯加減を調べる」「運勢をみる」(=占う)  
「出来ないものと見る」(=推定する)「たとえ十日かかると見ても」(=仮定しても)
- ③複雑な事項の処理や世話などを、責任を持ってする。(\*看る)  
例)「子供の面倒を見る」「年寄りを見る」
- ④好ましくない状態に実際に出会う 例)「ばかをみる」「憂き目をみる」
- ⑤そういう場面を実際に経験する 例)「史上稀に見る～」「類を見ない」
- ⑥新たな状況を迎える。～するに至る 例)「完成(意見の一致、解決、実現)を見る」

#### 「見える」(自動詞・下一段)

- ①ものが何かによって妨げられることなく、確かにその存在を目で感じることが出来る  
例)「富士が見える」「外野席でもよく見える」
- ②そういう状態にあると判断される 例)「解決したかに見える」
- ③客観的にそういう状態が看取される。うかがわれる。  
例)「限界(かげり)が見える」「反省の色も見えない」
- ④「来る」の尊敬語。  
例)「先生が見えた」「まだ見えない」

#### 「聞く」(他動詞・五段)

- ①音や声を耳で感じる(知る) 例)「風のたよりに聞く」「耳にタコができるくらい聞く」
- ②聞いた内容を理解して、それに応じる(\*聴く) 例)「親のいいつけを聞く」
- ③尋ねる。問う。(\*訊く) 例)「本音を聞く」
- ④酒の味や香のにおいのいい悪いを試してみる 例)「香を聞く」

#### 「聞こえる」(自動詞・下一段)

- ①音や声が耳に感じられる  
例)「皮肉に聞こえる(受け取られる)」「耳に聞こえた勇者(誰でも評判を知っている勇者)」  
「そりゃ聞こえません(そんな不合理な事を聞くわけにはいかない)」

「みえる」「きこえる」はそれぞれ「みる」「きく」に自発の意味の「ゆ」がついて派生したものである。

自発は可能と混同しがちであるが、「みる」「きく」に可能の意味を付加した単語は、「みられる（ら抜きでは「みれる」）」「きける」であり、例えば「このコンポでMDがきけるかい？」という文章が「このコンポでMDがきこえるかい？」ではなりたないことから、「きける」には可能の意味は含まれていないことがわかる。同様に、「ここからだ海は見えない」は「ここからだ海は見られない」と置き換えることはできず、可能にも自発は含まれないことになる。

つまり、可能と自発の表現は互いに排他的であり、一見近いようで明確に区別された表現であることが分かる。

（ただし、ベネッセ表現読解国語辞典には「見える」の意味として、「可能の意を伴って、『見ることができる』の意を表わす」と載せてある。これは、「見える」「聞こえる」などの自発の言葉は、人間の視覚・聴覚という感覚に関することであり、自発としてその「感覚に届く」ということは、人間の立場からしてみると「見える」は「見ることが可能になっている状態」、「聞こえる」は「聞くことが可能となっている状態」と同じものといえる。ゆえに、「可能の意を伴う」という意味が辞書に載せてあると考えられる。）

## ■用例分析

### ①

「～を みる」	(例)『流れ星をみる』	: 見ようと思って流れ星を見ている様子。
「～が みえる」	(例)『流れ星がみえる』	: 予期せず流れ星が目に入ってきた様子。
「～を きく」	(例)『音楽をきく』	: 聞こうと思って音楽を聞いている様子。
「～が きこえる」	(例)『音楽がきこえる』	: 自然と音楽が耳に入ってきた様子。

「見る」「聞く」と言う場合、通常前に「を」という助詞を取る。「～を」で動作の対象を取り出す場合、わたしたちは自分の意志を持って物事を行なっていることを表わすことが多い。反対に、「見える」「聞こえる」という場合は、前に「が」という助詞を取る。「○が～される」という形になると、自分の意志はないが、自然とその行為を行なってしまうという「自発」の表現意図が現れる。「見える」の場合は、「自然に視界に入ってしまう」、「聞こえる」の場合は、「自然に耳に入ってしまう」ということを表す。

例) 空気が澄んでいて、今朝はウチから富士山が見えた。

例) 物静かな深夜、隣の部屋から TV の音が聞こえた。

### ② 「～に見える」、「～に聞こえる」という用法の場合

#### 1) 比喩表現の補助に使う

「観覧車が花火に見える」・・・視覚対象に対する比喩

「彼の声がまるで音楽のように聞こえる」・・・聴覚対象に対する比喩

2) 自分の主観的意見、推測を述べるために使う

「この不発弾は第2次世界大戦中のものに見える」

「それは難しそうに聞こえるね」

→～のようだ、～そうだと置き換えられる

「この不発弾は第2次世界大戦中のもののようだ」

「それは難しそうだね」

- ・見て判断、意見、推測を述べる→見える（英語：look）
- ・聞いて判断、意見、推測を述べる→聞こえる（英語：hear・sound）

### ■ 考察

#### 視点①助動詞「る」

「見る」と「見える」、「聞く」と「聞こえる」の違い

→「見える」「聞こえる」はいずれも「見る」「聞く」+助動詞の「る」

助動詞の「る」=自発、受身、尊敬、可能

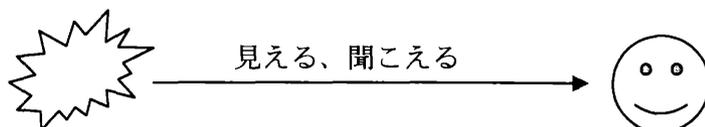
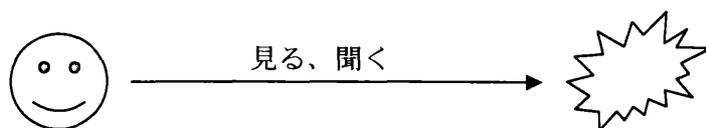
中でも「見える」「聞こえる」の場合、可能、受身の意味合いが強い

「聞こえるかい？鳥たちのさえずりが」・・・可能

「見たくないのに見えてしまった」・・・受身

#### 視点②力点

「見る／聞く」は、意識的な行動によって知覚するときには用い、「見える／聞こえる」は、そもそも存在そのものを指す。「ここから山を見る」というのは、山を見る主体が存在しなければならぬが、「ここから山が見える」という場合には、主体がいるかどうかは重要ではなく、山が見えるという地形そのものに力点が置かれている。



「～のように」を伴う場合に関しても、「彼を外国人のように見る」は誰が彼を外国人扱いしているのだが、「彼は外国人のように見える」は、彼はそもそも外国人のようなのだという客観的な事実（それが客観的かどうかはともかく、発話者は客観的だと主張している）である。

※「話の筋が見えない」

「私の話が見えてる？」という言い方は、話というものは視覚的に捉えることはできないので、この時点で比喩的である。先ほどの議論に沿って考えれば、「話が見える」というのは、話に力点が置かれた客観的な話題のはずだが、ここではどちらかという主体的な行動を話題にしているなので、なりたたない。

話の筋というものは視覚的に認知できるものではないのに、なぜ「見る」という動詞を用いるのか。英語でも「分かった＝I see」と見るという言葉を用いるが、辞書を引いてみると「見る」には理解するという意味も含まれているようだ。では、なぜ「話の筋を見ない」と言わないのか。この言葉を使用する状況は、話を理解できないという状況であり、理解しないという状況ではないからだ。そのためここでは話の筋を見ることが出来ていないという意味で、可能の意味を持つ「見える」を用いる。

## ■まとめ

「見える／聞こえる」は「見る／聞く」に助動詞「る」のついた形であるから、助動詞「る」のもつ、自発・受身・可能・尊敬の意味を持つ。

「みる」「きく」は対象を主体的・意図的に視覚または聴覚で知覚しようという行為をさすのに対して、「みえる」「きこえる」は、何者かがそれを知覚しようと意図すれば知覚できる、もしくは知覚主体の意図とは無関係に知覚してしまう状態をさす。

また、「みえる」「きこえる」の前に「に」を伴って、見たり聞いたりした結果、そう「判断した」、「推測した」ことを述べていることを表す。

## ■日本語教育の視点から

「みる／みえる」「きく／きこえる」の対応を、自発という文法用語を用いて説明することは、一般の日本語学習者に対しては有効ではない。言語によって単語の分節化が異なるように、文法の範疇も異なる。たとえば英語は日本語ではあまり用いられない非生物主語を多用するし、韓国語は日本語ほど受動文を用いず、中国語は日本語よりはるかに使役分を多用する。文法は概念と概念の結びつき方を規定するが、その方法は言語ごとに固有であり、同じ状況を同じ文法（例えば「使役」という文法）で示すとは限らない。

よって、「みる／みえる」「きく／きこえる」の対応を説明する際には、文法的な解説ではなく、意味用法の解説が必要となる。

執筆者

朴廷珍 伊藤貴祥 戎屋紘子 別所佑子 副田邦生 石田充 黄佳瑩 富田夏子

中村苑子 中村久子 森下泰行 加藤聖人 若月亜由美

編集者

武政美希

## 足す・加える

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### た・す【足す】(他動詞五)

必要を満たすべく、同質の(と認められる)物を加える。

「一に一を足す/足して二で割る式/もう千円足せば、もっと良い物を買う〔=実質への考慮が少ない形式論〕/ストーブに石油を足す/塩を少し足す/書き足す・言い足す」

ようをたす【用を足す】

⊖「出かけたついでに用を足す/そのほか二、三の用を足してから帰る」

⊖「道端で用を足す」

#### くわ・える【加える】(他動詞一)

⊖前からあるものの外に、新たな要素を取り入れる(て、大きな一まとまりとする)。

「マニラを訪問先に加える/新人を加えて、チームを再編成する/仲間に加える/味方に加える/新会員に加える/論評を加えず(に)〔=まじえないで〕報じた」

⊖④現状を改善する(それまでの不備を補う)ために、なんらかの方法を講じる。

「手(手心・筆・メス)を加える/説明を加える/おかゆに塩を加える/中国語の文法に鋭い考察を加える/簡潔な説明を加える/一切修正を加えない形で確定」

⊖⑤相手に影響の及ぶような行為をこちらから積極的にする。

「攻撃(圧力・危害・リンチ・体罰)を加える/一撃を加えた/侮辱を加えて追い出す/敵に損害を加える/暴行を加える/治療を加える」

⊖⑥その度合が今までよりも格段に強くなる。

「緊迫の度を加える/激しさ(重み・明るさ)を加える」

### ■用例分析

#### ・「足す」「加える」両方使える例

一に二を足す○/一に二を加える○

塩を足す○/塩を加える○

書き足す○/書き加える○

今あるお金にもう少しお金を足せば買える○/今あるお金にもう少しお金を加えれば買える○

味が薄いから醤油を後ひとさじ足して○/味が薄いから醤油を後ひとさじ加えて○

### ・「足す」のみ使える例

用を足す○/用を加える×

言葉を足す○/言葉を加える×

### ・「加える」のみ使える例

攻撃を足す×/攻撃を加える○

味方を足す×/味方に加える○

\*義捐金に毛布を足して被災地に送る×/義捐金に毛布を加えて被災地に送る○

\*醤油に砂糖を足して味を調える×/醤油に砂糖を加えて味を整える○

## ■考察

### 視点①語感の違い

語感から見ていくと両方使える文章で「一に二を足す、加える」は、文法上両方成立するが、語感が違うと思われる。「足す」の場合は一と二という数字の足し算であるが、「加える」は物や人が増加する概念であるようだ。この場合、一と二というのは数字ではなく、具体的な裏づけのある数であると考えられる。

### 視点②予定の有無

「塩を足す、加える」の場合、「足す」は塩の不足を補うためにする事であり、「加える」は予め決まっている量を合わせるために行う事だと思われる。例えば、「塩を足す」は、すでに塩を入れたが、まだ足りないので、「予定外にもう一度塩を入れる」という行為である。一方、「塩を加える」は「予定された量まで塩を入れる」という行為となる。

### 視点③付加するものが同質かどうか

「足す」のみ使える例と「加える」のみ使える例は、付加するものによって「足す」のみになるか「加える」のみになるかが決まるのではないかと思う。「足す」のみの場合は\*例を見れば分かるように同質のものを付加すると考えても良いと思う。それに対して「加える」のみの場合は\*例から考えると「足す」のような制限がなく異質のものでも構わないようである。

## ■まとめ

足す・・・語感が数的概念。予定外。足すものが足されるものと同質。

加える・・・語感が物的概念。予定内。加えるものが加えられるものと異質。

## ■日本語教育の視点から

「足す」の意味に関しては、足し算を用いれば容易である。「加える」は調理の場面を演じると教えやすい。

「足す」と「加える」のニュアンスの違いを教えるのは難しい。まとめにあるようなニュアンスを伝えなくてはならないので、数字や絵やアイテムを使って、視点ごとに見せていく。数字の操作と具体物の連想で、その重みの違いを表現してはどうだろうか。

執筆者

金鐘大

編集者

四元憲太郎

## たわむ・しなる

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 【たわむ】

〈撓む〉[細長い棒や枝が]力を加えられて、そり曲がった状態になる。

例：「雪で木の枝がたわむ／大車輪で鉄棒がたわむ」

#### 【しなる】

〈撓る〉[東北方言]しなう。

⇒【しなう】

〈撓う〉弾力が有って、折れずに曲がる。

例：「枝がしなう」

### ■用例分析

○スキー板がたわむ／スキー板がしなる

○枝がたわむ／○枝がしなる

○糸がたわむ／×糸がしなる

⇒細かい状況・状態での用例を挙げてみる

○実がたくさんなって枝がしなる

○実がたくさんなって枝がたわむ

○雪の重みで枝がしなる

○雪の重みで枝がたわむ

○剣道の竹刀がしなる

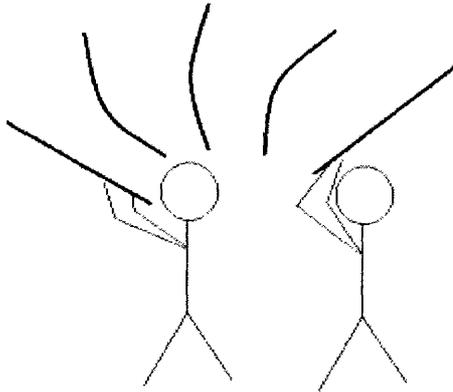
○剣道の竹刀がたわむ

### ■考察

#### 視点①描写している状態の違い

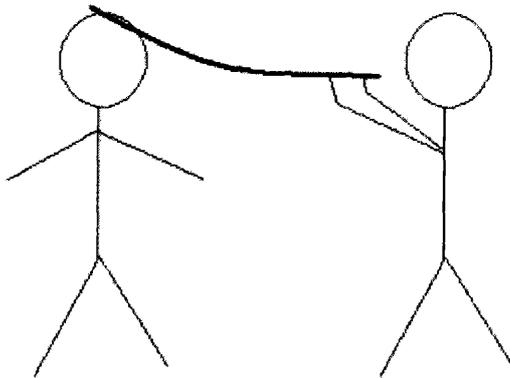
用例分析の最上部に記載している用例を見ても、多くの場合において「たわむ」と「しなる」の両方を用いることができる。ただし、状況や状態を限定してみると「たわむ」と「しなる」を使い分けしていることがわかる。

わかりやすい例として、「竹刀がたわむ／しなる」を挙げてみる。剣道で竹刀を振り下ろすときに、素早く振り下ろしている様子をゆっくり見ると、竹刀がしなやかに曲がって見える。この振り下ろしているときの竹刀の状態が「しなる」である。



「竹刀がしなっている」状態

逆に、振り下ろして相手の面に当たったとき、つまり外的な目に見えるものに当たって曲がった状態を「たわむ」である。



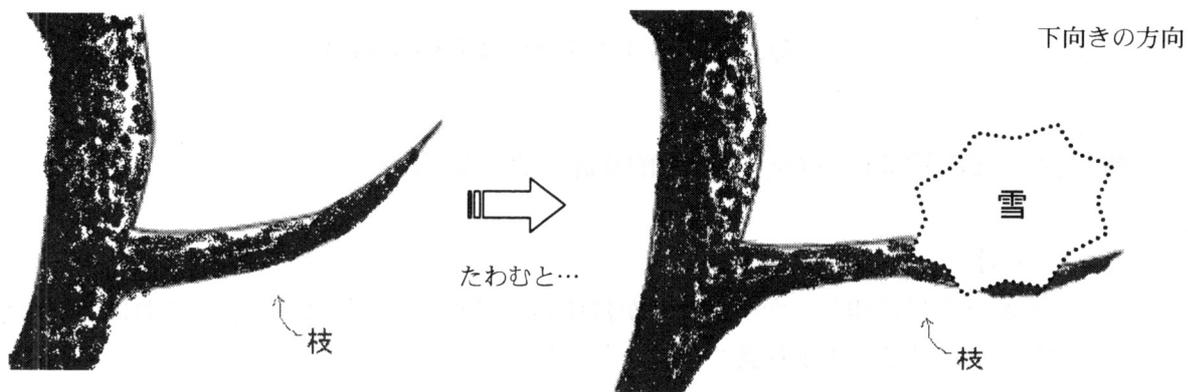
「竹刀がたわんでいる」状態

#### 視点②元に戻るかどうか

「○糸がたわむ／×糸がしなる」において「しなる」を用いることはできない。これは、辞書記載の意味にあるように、「しなる」は「弾力があって曲がる」場合において用いられるためである。

「雪の重みで枝がしなる／たわむ」状態もみしてみる。

まず、枝が「たわむ」という場合は、重たいものが枝に乗っかるなどしてその重みで枝が垂れ下がることをいう。つまり、外部の力を加えられてその力に耐えきれずに曲がってしまう状態、「曲がっている状態」である。



今度は枝が「しなる」という場合について試してみる。この用例においては、雪の重みで枝が垂れ下がっている状態を「たわむ」と言ったが、この雪がその重みで、枝から落ちたとき、枝の柔軟性や弾力性によって重みの反動で戻ってくるような状態を指す。

このように、枝が元の状態に戻ることを意識しているのが「しなる」であり、曲がった状態を表現するのみに留まり、枝が元の状態に戻るかどうかは意識していないのが「たわむ」である。

### ■まとめ

竹刀や枝の状態からみると、外部からの力によって「曲がっている状態」のとき(いわば「静」の状態)に「たわむ」を用い、柔軟性や弾力性をもち、その柔軟性によって曲がっている状態(いわば「動」の状態)に「しなる」を用いるといえる。

### ■日本語教育の視点から

「たわむ」と「しなる」という語自体普段用いられることが少ないため、しっかりと使い分けできるようにならないといけないというわけではないが、実際に教える場合、分析でも用いた竹刀や枝の例を用いれば使い分けの状態を提示しやすいように思う。また、「糸がたわむ/しなる」のように、どちらか一方が用いられない場合も少ないので、この例のように出てきたときに、特別な場合として、教えても問題はないと思う。

執筆者

朴廷珍 伊藤貴祥 戎屋紘子 別所佑子 副田邦生 石田充 黄佳瑩 中村苑子  
中村久子 森下泰行 加藤聖人 若月亜由美 内山恵

編集者

上田智哉

## かわいい・かわいらしい

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 【かわいい】

〔雅語「かははゆし」からきた「かはゆい」の変化。原義は、ほうっておけば悪い事態になるのをそのまま見過ごせない、の意。〕

①自分より弱い立場にある者に対して保護の手を伸べ、望ましい状態に持って行ってやりたいと思う(気持ちを抱かせる)感じだ。

「親なら自分の子がいちばんかわいい」「私のかわいい子犬」

「まだかわいい〔＝憎めない〕所が有る」「かわいい声で歌う」

②小さくて頼りない(弱よわしい)感じがして親近感を抱かせる様子だ。

「かわいい〔＝小さいなりに観賞に耐える〕花」「かわいい〔＝小型の〕電池」

#### 【かわいらしい】

見た目に小さくて、印象がいい様子だ。

### ■用例分析

#### 両方使える場合

- ・かわいい人／かわいらしい人
- ・かわいい服／かわいらしい服
- ・私の娘はかわいい／私の娘はかわいらしい

#### かわいいのみ使える場合

- ・私は娘がかわいい○／私は娘がかわいらしい×

#### かわいらしいのみ使える場合

- ・かわいく振舞う△／かわいらしく振舞う○

### ■考察

「かわいらしい」の成り立ちは、「かわいい」とその語幹に「-らしい」がついた形で「かわいい」がもとになっている。

#### 視点①属性形容詞と感情表現形容詞

(1)私は娘がかわいい。○

(2)私の娘はかわいい。○

2つの文のかわいいは違う意味を持つ。(1)の「かわいい」は私自身が娘を愛する気持ちを表わす感情表現形容詞であるのに対し、(2)の「かわいい」は私の娘が一般的に見てかわいいという状態を表わす属性形容詞になっている。

この2つの文をそれぞれかわいらしいに言い換えてみると・・・

(3)私は娘がかわいらしい。×

(4)私の娘はかわいらしい。○

というように(3)の文は明らかにおかしい。つまり、「かわいらしい」には主語の感情を表わす意味を持っていないことがわかる。

### 視点②付随するイメージ

(5)かわいく振舞う△

(6)かわいらしく振舞う○

この2文の場合、「かわいらしい」の方が、「かわいい」より適切であるように感じる。「かわいい」が事物の属性を表わすのに対し、「かわいらしい」は「かわいい」に含まれる「見た目が小さく、愛嬌があつて好ましい」という部分を取り出した属性形容詞である。「振舞う」などの動作性の動詞につく副詞的な「かわいらしく」には、小さい、愛嬌があるなど子供を連想させるところがある。

(7)1組のA先生かわいいよね～

(8)1組のA先生かわいらしいよね～

(7)の先生より、(8)の先生のほうが、背が小さいというイメージが沸く。子供やペットに使われることが多いせいなのか、もともとの意味がそうなのかわからないが、「かわいらしい」には小さくまとまっているかわいさを指しているように感じる。

### 視点③見た目と内面

(9)あのおっさんかわいい。

(10)あのおっさんかわいらしい。

(9)の文は、本来「おっさん」という単語が「かわいい」とは馴染みにくく、「おっさん」が文字通りの意味でかわいいということはない。それにもかかわらず使用されるのは、「おっさん」の見た目がかわいいのではなく、おっさんの内面的な部分がかわいいということを表わしている。

一方、(10)は「かわいらしい」を使用しているが、強烈な違和感を覚える。これは、「かわいらしい」が内面ではなく、文字通り見た目のことを表わしている為であると考えられる。昔は「かわいらしい」は「おっさん」に対し用いなかった。しかし、現代の語用の変化のあおりを受けて「かわいらしい」も「おっさん」という単語には絶対に結びつかないということが言えなくなっている。

## ■まとめ

- 「かわいい」
- ・ 属性形容詞にも感情表現形容詞にもなる。
  - ・ 見た目+内面
- 「かわいらしい」
- ・ 属性形容詞である。感情形容詞として使えない。
  - ・ 小さくまとまっているかわいさを示す。
  - ・ 見た目(ただし、語用が変化してきている為一概に言えない)

## ■日本語教育の視点から

形容詞として多用されるであろう「かわいい」と「かわいらしい」の違いは日本語学習者にとって、疑問が生じることが多いはずである。そのときは、視点①の属性形容詞か感情形容詞かだけを間違えないように指導するとよい。方法は文の書き換えによって、(3) 私は娘がかわいらしい、だけは言えないことを示せばよい。残りの視点は例え逆に使ったとしても間違いではないので、授業では訂正しなくてよいだろう。日常の生活の中で学習者が学ぶべき事項である。

執筆者

四元憲太郎

編集者

武政美希

## (～しなければ) いけない・(～しなければ) ならない

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第四版)

【いけない】

① よくない。

【ならない】

① (・・・することは) 許されない。

② (・・・することが) 出来ない。

③ どうしようもない。

### ■用例分析

#### 両方使える場合

- ・お金を届けなければならぬ。／お金を届けなければいけない。
- ・規則を守らなければならぬ。／規則を守らなければいけない。

#### ならないのみ使える場合

暑くてならない。

なくてはならないもの(慣用表現)

基本的には「いけない／ならない」はどちらも使えて、その事柄に対する主観性と客観性というスタンスの差しかない。しかし「～ならない」は慣用的な表現が多い。

### ■考察

#### 視点①事柄に向き合うスタンス

「いけない」と「ならない」の基本的な違いは、「いけない」は主観的な立場に立って物事を判断しているのに対して、「ならない」は法律や規則のようなものと照らし合わせて、客観的に判断を下している。

#### 視点②慣用表現

ある状態ではいられない状況を「ならない」では表す。たとえば、「油断ならない」であれば油断する状態ではいられない状況のことを表すし、「我慢ならない」であれば我慢する状態ではいられない状況を表す。「いけない」にはこの用法はない。「我慢いけない」とは言わない。

自発のどうしようもない感情を表すときに、「ならない」は使えるが「いけない」は使えない。たとえば「心配でならない」と言うときは、心配でどうしようもない感情を表している。しかし「心配でいけない」という言い方はない。

### 視点③位相の違い

日常の些細な場面では、一般的に「いけない」を用いる。「ならない」は規範や法といった背景があり、厳かな意味を持つので、ちょっとした事で用いるとおかしく聞こえる。用例の「ご飯を食べる時は手を洗わなくてはいけない」を「洗わなくてはならない」にすると妙に厳格な感じがしておかしい。

話し言葉が「いけない」、書き言葉が「ならない」と相性がいい。会話は個人の経験や主観に基づいて為されることが多く、文章は一般性を持たせるために、客観的事実に基づくことが多いからである。

### ■まとめ

- ・「いけない」・・・主観的に物事を判断してその行為を止める、もしくは人に指示する。  
日常会話でよく用いる。
- ・「ならない」・・・客観的に物事を判断してその行為を止める、もしくは人に指示する。  
慣用表現として、ある状態ではいられない状況。自発的感情としてコントロールできない感情を表す。

### ■日本語教育の視点から

「いけない」と「ならない」は大きく分けると主観的か客観的によって大別される。まずは、それを教えるべきである。「いけない」はやんわりとした雰囲気、「ならない」は強い口調で厳かな雰囲気を出して演技するとよい。「ならない」が客観的事実に基づいていることをアピールすれば、それほど難しくないだろう。

「我慢ならない」や「心配でならない」のような、「ならない」には状況的視点と状态的視点に関して「いけない」にはない意味が存在する。使う場面が限られるので、例外的に列挙して覚えさせるとよい。

執筆者

渡辺信太郎

編集者

庄司由香里

## 危ない・危うい

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第四版)

#### ・あぶない【危ない】(形)

- ① 安全が保障出来ない様子だ。「危ないおもちゃ」
- ② 情勢がきびしく(状態がひどくて)、うまく助かるかどうか心配だ。  
「今日、明日にも危ない(=死が近づいている)」
- ③ よい結果が期待出来なくて、不安だ。怪しい。「危ない空模様だ」

#### ・あやうい【危うい】(形)

- ① 滅亡や崩壊のおそれが目前に迫っている状態だ。「危うい所を助かった」
- ② 「あぶない」の雅語的表現。「危うく衝突させる所だった」

「危ない」と「危うい」は大まかに言うと共に“危険である”という意味だが、①原因の明確度、②現時点での危険度、③口語と文語、といった三つの面で違いがでてくる。

### ■用例分析

#### 両方使える場合

- 命が危ない／○命が危うい
- このままでは社長の椅子が危ない／○このままでは社長の椅子が危うい
- 卒業が危ない／○卒業が危うい

#### 危ないのみ使える場合

- 道路で遊ぶのは危ない／×道路で遊ぶのは危うい
- 危ない橋を渡る／×危うい橋を渡る

#### 危ういのみ使える場合

- ×危なさを孕んでいる／○危うさを孕んでいる

### ■考察

#### 視点①原因の明確度について

「危ない」と「危うい」では、「危ない」の方が原因が明確である場合に使い、「危うい」は不明瞭である場合に使う。例文で「危ない」しか使えない場合として、「道路で遊ぶのは危ない」という文を挙げたが、これは危険な原因がはっきりしているからである。道路で

遊ぶのがなぜ危険かと言うと、“車が通るから”であり、一目瞭然である。原因が明確な出来事には「危ない」が適しており、この場合に「道路で遊ぶのは危うい」ではおかしい印象を受ける。

逆に「危うさを孕んでいる」という文では、「孕む」という動詞自体が「中に含んで持つ」という目に見えにくい曖昧な表現であって、“危険が内在している”といったことを伝えるには「危うさ」と合致する表現である。「危なさを孕んでいる」では変な感じがしてしまう。

#### 視点②現時点での危険度について

「危ない」はもう現時点ですでに危機に瀕しているが、「危うい」はその一歩手前の状態にあることを意味している。両方使える場合の例文で「命が危ない」と「命が危うい」を挙げたが、例えば男が人質を奪って逃走した時、印象として「人質の命が危ない」と聞いた時には“明日までに1000万円を払わなければ人質が殺されてしまう”といったような状況を思いつくが、「人質の命が危うい」と聞いた時は“このまま犯人が見つからなかったら人質の命も保障できない”といったことを思いつく。どちらも危険な状況にあるが、「危ない」と言った時の方がより危機が迫った状態にある印象を受ける。これは、①原因の明確度が関係しており、「危ない」の方が危険の原因がはっきりしているということは、やはりそれだけ危険が押し迫っている状況にあるということなのだと思う。車に轢かれそうになった時に「危ない！」とは言うが「危うい！」とは言わない。

#### 視点③口語と文語について

「危ない」と「危うい」について考えた時、「危ない」の例文はすぐに思いついたが「危うい」の方はなかなか思いつかなかった。私達は「危うい」という言葉を日常生活で使うことがほとんどなく、「危うい」は改まった文章の中で見られる程度である。「危うい」は辞書の中でも“「あぶない」の雅語的表現”と書かれており、「危ない」は主に口語で「危うい」は文語という分け方ができると思う。

#### ■まとめ

- ・「危ない」…顕在的。もうすでに危険状態にある。  
具体的。  
口語表現。
- ・「危うい」…潜在的。危険な事態に近づきつつある過程にある。  
抽象的。  
文章表現。

## ■日本語教育の視点から

「危ない」と「危うい」を日本語が母語でない学習者に説明する時は、①原因の明確度と②現時点での危険度に注目させて、様々な状況を例に出して行ってそれが「危ない」状況なのか、それとも「危うい」状況なのかを実際に考えてもらうようにしていったらいいのではないかと思う。

ただ、普通に生活している中で「危うい」という言葉を使う機会はほとんどない上に、「危うい」を「危ない」と言っても意味は理解できるので「危ない」を優先的に使いこなせるようにする方が実用的で、特に初級者は二つの違いを明確に知る必要はないと思う。

執筆者

富田夏子

編集者

庄司由香里

## うちに・間に

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### ・「～うちに」

その要素が、初めから終わりまで持続していることを表す。

「貧苦のうちに成人する〔幼いときから貧乏をなめ尽くして〕」

「オペラは成功のうちに終わった〔結果的に大成功だった〕」

#### ・「～間に」

①直接続かない二つの点(物)の非連続部分に存在する空間・時間など。

「木立の間の〔すきま〕から空がのぞく」

「間〔絶え間〕を置いて痛む」

②一続きの時間・空間。

「夫婦の間には三人の子がある」

「私が生きている間〔限り〕はそんな事はしないでほしい」

「昔尾張美濃の間〔地方一帯〕を流浪していたころ」

### ■用例分析

#### 「～うちに」のみ使える場合

日が暮れないうちに

一瞬のうちに

#### 「～間に」のみ使える場合

生徒の間に人気がある

授業と授業の間に休憩する

#### 両方使える場合

食べているうちに／食べている間に

寝ているうちに／寝ている間に

知らないうちに／知らない間に

冬のうちに／冬の間

晴れているうちに／晴れている間に

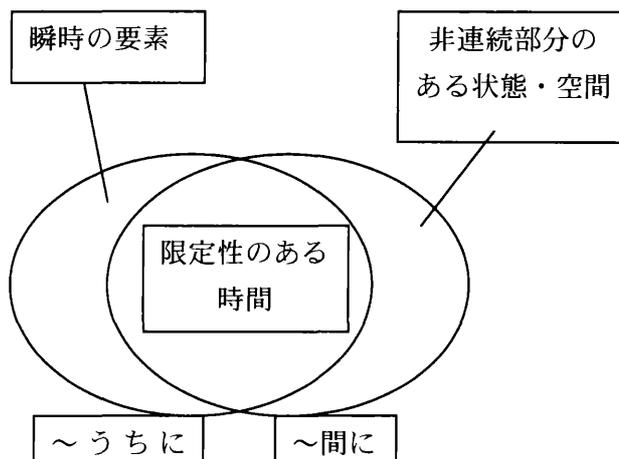
## ■考察

### 視点①意味の共通部分と相違部分

「うちに」と「～間に」という言葉は、基本的には共有される意味として「限定性のある時間」を持つと考える。限定性のある時間というのは、始まりがあって終わりのある時間のことを指す。例えば「冬のうちに／冬の間」という文では、冬という季節の始まりと終わりがある。「食べているうちに／食べている間に」では、食べ始めから食べ終わるまでの時間がある。

その中で、「～うちに」には、更に瞬時の要素が強いと考える。例えば、「一瞬のうちに」、「今のうちに」という例文では、ある一時の非常に限定的な期間であり、再び来ることはない、ということを表している。

その一方で、「～の間に」は、人や物、非連続性の中に存在する空間・状態の意味を含むことがある。例えば、「授業と授業の間に」の例文では、離れている授業同士の間を指し、「生徒の間に人気がある」の例文では、生徒たちの中で共有される状態を指している。



「うちに」では、「夜が明けないうちに」のように、「夜が明ける」時点が来るとできなくなることを、その時点より前にしてしまうことに重点があり、それを「あいだに」に変えることはできない。

「子供が寝ているうちに掃除をしてしまう」なら、いつ来るかわからない「子供が目を覚ます」時点を意識して、その時点来るとできなくなる「そうじを」してしまうことに重点があり、「子供が寝ているあいだに掃除をしてしまう」なら、「子供が寝ている時間帯に掃除をする」ことを指している。

「私が生きているうちに帰って来い」は何時死ぬかもしれないから、その時点来る前に「帰れ」という意味であり、「私が生きているあいだに帰って来い」は、「生きている」と

いう限定された時間に注目し、「帰る」行為は「生きている間」のどの時点でも良いことを表わしている。

「本を読んでいるうちにうとうとしてしまった」と「本を読んでいるあいだにうとうとしてしまった」だと、後者が「本を読んでいる」という限定された時間内で起こったことを指すのに対し、「本を読み終える」時点がわからないまま、「うとうとする」という次の行動が起こったことを指している。前者では「読む」行為が連続しているが、後者では「読んだりうとうとしたり」で「読む」行為は不連続である場合もある。

「間に」という言葉に関してだが、「～間（あいだ）に」と「～間（ま）に」という言葉の違いについて、これらは音の違いであり、基本的に言葉の使い方は変わらない。古典の時代から使われていた表現がこの「～間（ま）に」という言葉であり、その用法は慣用表現となっている。このことの例として、「知らぬ間（ま）に」と使ったときには「知らぬ間（あいだ）に」ということはできないが、「知らない間（あいだ）に」と表現する際には「知らないうちに」と使用することもできてしまう。期間を示す意味で使用した際には、かつての使用方法和、変わらないと考えられる。しかし、古典文法には「間（ま）」と使用した際に「暇」という意味が含まれた場合もある点では若干異なる。

#### 視点②口語と文語

使用方法に関してだが、「間（あいだ）に」と「～うちに」の違いは、口語的表現方法と文語的表現方法の違いがあるといえる。文章などに書いたとき、一語一語を選んで書いたりする場合には、「～間に」という言葉が使われ傾向にある。そして、日常会話の中で「うちに」という言葉は良く使われているという点に多少の使用方法的の違いがあるといえる。

#### ■まとめ

「～うちに」と「～間に」の両方に共通する要素として、限定性のある時間がある。その中で、「～うちに」では、瞬時の要素が強く含まれ、「～間に」では非連続部分の状態・空間を含むものがある場合がある。

そして、「～うちに」は口語表現的であり、「～間に」は文語的表現として区別される場合もある。

#### ■日本語教育の視点から

基本的には同じ意味を持つが、「～うちに」と「～間に」には、それぞれ限定的な意味があることを説明しなければならない。どちらの言葉も日常生活で良く使われる言葉なので、初級レベルの段階から意味の違いを理解してもらうのが理想であると考えます。

その上で中・上級レベルになったら、口語的・文語的表現の違いを示していければ良いと思う。

執筆者

中本綾子 平山剛 副田邦生 戎屋紘子 別所佑子 石田充 森下泰行 中村苑子

中村久子 飯田恭央 高橋伶子 小林惇子 高橋若菜 今井蘭泉

編集者

武政美希

## から・ので

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第五版)

「から」 [接続助詞]

- ① 前件の事柄が後件の事柄の原因・理由となることを表す。  
{命令・依頼・推量・意志・主張など、話し手の主体的な立場で述べる場合に多く用いられる。}  
「寒いから窓を閉めてくれ」「星が出ているから明日もいい天気でしょう」
- ② どの事項が前件の事柄の原因・理由であることを表す。  
「今年の米の作柄が悪かったのは、盛夏に気温の低い日が続いたからだ」
- ③ [終助詞的に]相手に向かって強い決意を表す。  
「そんな事をしたら承知しないから」「もうどうなっても知らないから」  
「誰が何と言おうと私はやめないからね」

「ので」 前件が理由・原因となって、後件に述べる事柄が起こることを表す。

「風が強いのでほこりがひどい」「ストライキで電車がとまったので遅刻した」

### ■用例分析

- ①先生「どうして欠席したのですか？」  
×学生「風邪をひいたから、欠席しました。」  
○学生「風邪をひいたので、欠席しました。」
- ②学生A「どうして昨日休んだの？」  
○学生B「風邪をひいたから、欠席した。」  
×学生B「風邪をひいたので、欠席した。」
- ③○電車が遅れたから、遅刻しました。  
○電車が遅れたので、遅刻しました。
- ④○彼が休んだから、私が代わりに出席しました。  
○彼が休んだので、私が代わりに出席しました。
- ⑤○何と言われようと、私は行かないから。  
×何と言われようと、私は行かないので。

⑥○そんなことをして、もうどうなっても知らないから。

×そんなことをして、もうどうなっても知らないの。

## ■考察

### 視点①丁寧さ

用例①や②から、相手や場面の状況で、くだけた表現でよい時は「から」を、丁寧な表現にするべき時は「ので」を用いる。

丁寧さという面で、話し言葉では「から」が、書き言葉では「ので」が好まれる。

### 視点②主観客観

用例③の場合は、場面の状況を見れば、「から」「ので」どちらを用いても、文としては成立する。しかし、ニュアンスが異なる。「電車が遅れたから、遅刻しました」の方は、言い訳のように聞こえ、主観性が強い。一方、「電車が遅れたので、遅刻しました」の方は、客観的事実に照らして、電車が遅れれば遅刻することは当然である、という客観的視点がある。

### 視点③感情、意思表示

用例④「彼が休んだから、私が代わりに出席しました。」には、「彼」に対する非難や怒りの気持ちが若干感じられる。一方、「彼が休んだので、私が代わりに出席しました。」には、「彼」が休んだことに対する個人的な感情を表わさず、事務的にその事実を述べているという印象がある。視点①丁寧さからの派生視点と言ってよい。丁寧であることは感情表現を抑えることだからである。

用例⑤や⑥のように、自分の意思を示す時には、「から」を用いる。「ので」は口を大きく開かない発音の通り、控えめな単語なので、意思表示する時はなじまない。

## ■まとめ

「から」・・・辞書にもあるように、話し手の主体的な立場が強調される場合が多く、主観的な印象を抱かせる。そのため、話し手の依頼や主張などを表現する際にも用いられる。それに加えて、話し言葉的でくだけた印象、時には子供っぽい印象も抱かせる。

「ので」・・・客観的事実や、原因から一般的に当然に生じる結果を述べる際に多用される。その客観性から、事務的な印象を抱かせる。また、感情的な印象を持たせないため、丁寧表現で「から」の代わりに用いられることが多い。

## ■日本語教育の視点から

場面で使い分けを見せて、丁寧さをわからせるのが近道と思われる。先生と学生の場面では「ので」を、学生同士では「から」を使うというように、割り切って見せる。「から」をくれた調子で言うのがポイント。

執筆者

中本綾子 真後広子 平山剛 別所佑子 副田邦生 戎屋紘子 石田充

高橋怜子 今井蘭泉 中村苑子 森下泰行 中村久子 飯田恭央 高橋若菜

編集者

佐々かおり

# なぜ・どうして

## ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

【なぜ】 ①どういう理由でそうなのかと疑問を抱く(問いかけたくなる)様子。  
「人間はなぜ死を恐れるのだろうか/なぜ出席しないの/怒られたのはなぜだかわからない」

【どうして】 ①問題を解決するための手段・方法について思い悩む(問いかけたいと思う)様子。「どうして切り抜けるかが問題だ」  
②そのような事態になった理由が分からなくて判断に苦しむ(問いかけたいと思う)様子。「どうして分からないんだろう/どうして怒れようか」  
③実際の程度が予測を超えていることに驚きを禁じ得ない様子。[感動詞的にも用いられる。「いや、どうして、なかなかのものだ」]  
「なかなかどうして一筋縄ではいかない/どうしてたいした腕前だ」

## ■用例分析

- ①なぜ、この問題が分からないの？
- ②どうして、この問題が分からないの？
  
- ③こういう結果になったのは、なぜか説明せよ。
- ④こういう結果になったのは、どうしてか説明せよ。

## ■考察

### 視点①論理と感情

①②の例文を比較すると、①の方は、こんな簡単な問題なのに解けなかったの？と少し責める意味を含んでおり、②の方は、どういう考え方をしたの？使う公式が分からないの？と分からない理由そのものを尋ねて、それを聞いたら、助言をしてあげようという意味を含んでいると思う。

③④の例文を比較すると、③の方はデータ、数値な資料に具体的な資料に裏付けされたことを基に説明しなければならぬ意味をふくんでおり、④の方は感情なども含め説明しなければならぬ意味をふくんでいると思う。③④の使われる場面を想定してみる。

③の場合はよく数学の問題で目にする。証明の問題である。数学の証明の問題を解く。つまり数式を変形させたものを利用したり、数値を利用したり、具体的なデータに裏付けされたものを用いて、論理的に証明するのである。

④の場合は友達を意見の言い合いになった時などに用いる。この理由にはデータなども関係してくると思うが、主を占めるのは個人の感情である。

また、②を反語表現として用いる場合がある。「どうして、この問題が分からないの？」→「普通分かるよね。」という反語である。反語を用いる時は、感情が高ぶっている。このように、「どうして」は感情的な副詞である。

### 視点②公共性

「なぜ」に比べ、「どうして」は公共性の高い場で使われることが多い。それは、「なぜ」は答えに客観性を求めるため、いい加減なことが言えないからである。そのため、大勢の人や、テレビの前など、改まった場で「なぜ、彼がそんなことをしたのかと言うと…」や「なぜ、そう思われますか」などのようにして、敬語と結びついて使われることが多い。また、「なぜ」が書き言葉として多く用いられることも、紙上に記録として残るため、慎重になっているのだと考えられる。

一方、「どうして」は主観的な要素が強く、正確な事実よりも、自分を納得させる答えを求める傾向にある。そのため、答える方にも、絶対に、客観的な事実を述べなければならぬというプレッシャーをあまり感じさせない。そのため、「どうして昨日来なかったの～？」や「どうしてそんなこと言ったの？」のように、友達同士のおしゃべりなどで気軽に用いられることが多い。

### 視点③書き言葉と話し言葉

視点①や視点②と関連する。論理的で公共性になじむのは、書き言葉である。対して、感情的で私的な場面で用いるのは、話し言葉である。特に、子供は「どうして？」と口にする。それが、口語として強く習慣化されているのだと考えられる。

### ■まとめ

- |        |   |
|--------|---|
| 「なぜ」   | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 論理的な説明を求める。</li><li>・ 公共性の高い場所で使われることが多い。</li><li>・ 書き言葉で使われやすい。</li></ul>                                |
| 「どうして」 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 主観的で感情的な意味を持つ。</li><li>・ その感情を納得させられる答えを求めている。</li><li>・ 私的な場で使われることが多い。</li><li>・ 話し言葉で使われやすい。</li></ul> |

## ■日本語教育の視点から

「なぜ」と「どうして」は、共に日常生活の中で、頻繁に使う言葉なので、初級の段階で使いこなせるようにする必要がある。しかし、この二つの言葉は、“理由を問う”意味では、ほとんど違いがなく、どちらを使っても問題はない。そのため、まず、「なぜ」を2つの軸（①改まった場、②書き言葉）にそって例を出しながら説明し、「どうして」をその反対の性質（①私的な場、②話し言葉）を持つものとして説明していく。そして、友達と話す場合、会議でプレゼンをする場合など、状況を設定して、練習し、大まかに二つを使い分けることができればよいと思う。

「どうして」に関しては、“出来事に対して驚きや否定的な感情を抱く”ことを強調しすぎると、「どうして」を使う＝怒っている、ということになり、学習者を混乱させてしまう可能性がある。そのため、上級者に「そういう一面がある」と言ったことを軽く説明する程度でいいのではないかと思う。

執筆者

中本綾子 真後広子 平山剛 戎屋紘子 別所佑子 副田邦生 石田充 高橋若菜

高橋怜子 今井蘭泉 富田夏子 森下泰行 中村苑子 中村久子

編集者

佐々かおり

## ゆっくり・ゆったり・のんびり

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 【ゆっくり】

- ① 時間をかけて、(時間に制約されない状態)何かをする様子。  
「分かりやすくゆっくり話す」
- ② 時間的、精神的に十分余裕があって緊張を強いられることの無い状態。  
「朝までゆっくり眠る」

#### 【ゆったり】

- ① 空間的に十分余裕があって、圧迫感を感じる事の無い様子。  
「ゆったりした上着／ゆったりした間取り」
- ② 仕事などから解放されて、のんびりした気持ちでくつろぐ様子。  
「ゆったりとした気分」

#### 【のんびり】

- 差し迫った用事や心配事がなくて、余裕のある穏やかな気持ちでいる様子。  
「いつまでものんびりしてもいられない／のんびりした田舎の生活」

### ■用例分析

#### 例文1

- ・ 温泉にゆっくりつかる ○
- ・ 温泉にゆったりつかる ○
- ・ 温泉にのんびりつかる ○

#### 例文2

- ・ 部屋でゆっくり過ごす ○
- ・ 部屋でゆったり過ごす ○
- ・ 部屋でのんびり過ごす ○

#### 例文3

- ・ ゆっくり歩いてください ○
- ・ ゆったり歩いてください ×
- ・ のんびり歩いてください ○

#### 例文4

- ・ ゆっくりした気分 ×

- ・ ゆったりした気分 ○
- ・ のんびりした気分 ○

#### 例文5

- ・ ゆっくりした洋服 ×
- ・ ゆったりした洋服 ○
- ・ のんびりした洋服 ×

#### 例文6

- ・ ゆっくりした性格 ×
- ・ ゆったりした性格 ×
- ・ のんびりした性格 ○

### ■考察

辞書の意味を見てもわかるように、「ゆっくり」「ゆったり」「のんびり」に共通していることは“穏やかな様子”“急がない様子”や“ゆとりがある様子”の意味で使われている点である。ここでは、これらの意味の中で、違いを探していくことにする。

#### 視点①意味の違い

例文1の「温泉に\_\_\_\_\_つかる」という例文から検証すると、状況の違いが見られる。

「ゆっくり」は、時間をかけて温泉につかり、温泉を楽しむ様子を表している。また時間的制約がないことから来る気持ちの穏やかさも同時に示している。

「ゆったり」の場合は、広い温泉に、人が密集せずにつかり、温泉を楽しむ様子を表している。この場合、一人きりで、広い温泉につかっているのが望ましい。空間的制約がないことから来る気持ちの穏やかさも同時に示している。

「のんびり」を使用した場合は、普段のストレスから開放されて、気持ちが和んでゆく様子を表している。日常の煩わしさから開放されることから来る気持ちの穏やかさを示しているのである。

#### 視点②行為・動作の違い

つぎに例文3の「\_\_\_\_\_歩いてください」を見てみる。なぜ例文3では「ゆったり」が使えないのだろうか。

「ゆったり」は、基本的に人間が動かない時にしか使われないのではないだろうか。「ゆっくり」や「のんびり」の後には「走る」などの激しい動作が来てもよいが、「ゆったり」には使えない。「ゆったり」の後に動詞が来る場合は、その動詞は激しい動作を伴うものではなく、激しく動かない様子を示す動詞でなければならない。「ゆったり」は空間的制約から解放される時に感じる穏やかさで、激しい動作では空間的要素があまり関係ないため使用できないのだと思う。

### 視点③時間的・空間的な違い

例文4で「ゆっくり」が使えないのはどうしてだろうか。その理由としてあげられるのは、気分の説明としてこの語が使われているからだろう。「ゆっくり」は、時間的制約が直接ない文脈では使用できない。そのため、時間的制約のない「気分」という言葉には使えないのである。「ゆったり」は心の空間を意図しているときに使用できる。また、気分という言葉は、人の心の状態を表す場合に使う言葉であるため、例文4において「のんびり」は使用することができる。

### 視点④気分・性格・精神的な違い

例文5を見てみると、視点③にあるように時間的制約のない「洋服」という言葉には使えないのはわかる。ただし例文5の場合、「のんびり」も使うことができない。これは「気分」という人の心の状態を表す場合に使う言葉と、「洋服」という人の心の状態を表せない言葉の違いであると思う。つまり、視点①の意味的な違いにも関係するが、「のんびり」には人の精神的な心の状態に関わるという要素が強いと思われる。そのため「のんびり」は例文4では使えるが例文5では使うことができない。また例文6をみると、「性格」という言葉には性格という言葉の通り、人の精神的な部分にかかわるため、「のんびり」は用いられるが、視点③のように時間的・空間的制約のないため「ゆっくり」と「ゆったり」という言葉は用いられないと考えられる。

精神的な視点を用いるときにもう少し考察してみる。次の例文7をみってみる。

#### 例文7

- ・ゆっくりとした背丈×
- ・ゆったりとした背丈×
- ・のんびりとした背丈×

「背丈」という言葉は時間的制約をもつ言葉ではなく、人の心を表せない言葉である。だが、「洋服」のように空間的な言葉であるにもかかわらず「ゆったり」を用いることができないのか。これは「洋服」のように空間的な余裕によって精神的に安心したり、くつろげたりなどの、精神的余裕を含むことがわかる。

逆に「ゆっくり」は例文3のようにただスピードが遅い、たくさんの時間をかけて何かを行う、という場合にでも使うことができる。

### ■まとめ

「ゆっくり」「ゆったり」「のんびり」は、ともにゆとりのある様を表す語である。これらの3つの言葉はいずれの言葉も使用できる例文といずれかしか使用できない例文が明白である。同じようなことを表している例文であっても、強調したいことは異なる。

「ゆっくり」は時間的ゆとり、「ゆったり」は空間的・身体的ゆとり、「のんびり」は精神的ゆとりがある状況を示している。

例えば、温泉では、「ゆっくり」（十分に時間がある＝時間的にゆとりがある）と、広い湯船に入り「ゆったり」（窮屈ではない＝空間的・身体的にゆとりがある）とし、「のんびり」（気分がいい＝精神的ゆとりがある。）できる。何を強調したいかによって、どれを使用するかを選択すれば良いのである。

### 3つの言葉の違い

ゆっくり・・・時間的要素が強い。

ゆったり・・・空間的要素が強い。

のんびり・・・人の性格や気持ちを説明する要素が強い。

### ■日本語教育の視点から

どのことばも日常生活でよく使う言葉である。これら三つの言葉を混同しても重大な誤解を招くことは少ないと思われるが、様子や気分をより正確に伝えるためにぜひ使い分けをマスターできると良いと思う。「ゆっくり」と「ゆったり」と「のんびり」を説明するときは、時間的・空間的・精神的のどの要素を強調したいか、何に焦点を当てて使いたいかに注目させ、様々な状況を例に出して、「ゆっくり」「ゆったり」「のんびり」のどれを使用するかを判断できるようにしていったら良いのではないだろうか。

執筆者

中本綾子 真後広子 平山剛 戎屋紘子 石田充 副田邦生 別所佑子

高橋怜子 高橋若菜 今井蘭泉 森下泰行 中村苑子 中村久子 飯田恭央

庄司由香里

編集者

上田智哉

## 全然・まったく

\*「まったく」は「全く」と書かれることもあるが漢字語の「全然」と対比させる為、ここでは敢えてひらがな表記をする

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第四版)

ぜんぜん【全然】(副) その事柄を全面的に否定する意を表わす。全く。「— [=まるで] になっていない」〔俗に、否定表現を伴わず、「非常に」の意で用いられる。例、「— [=てんで] おもしろい」〕

まったく【全く】(副) 〔雅語「またく」の強調形〕 そうとしか形容出来ないほど強く感じられることを表わす。「— [=いかなる意味においても・(全然)] 忘れていた・— [=実に] つらい話だ・— [=お世辞抜きで] うまいね・これは—の幸運だった」〔元来は、否定表現を伴った〕

### ■用例分析

全然～	まったく～
○全然うまくない	○まったくうまくない
○全然違う	○まったく違う
×全然健全だ	○まったく不健全だ
×全然非論理的だ	○まったく非論理的だ
×全然無関心だ	○まったく無関心だ
×全然未完成だ	△まったく未完成だ
×全然そのとおり	○まったくその通り
×全然の幸運	○まったくの幸運
×全然の無駄骨	○まったくの無駄骨

### ■考察

#### 視点①用法の差異

「全然」と「まったく」の両方を使うことができるのは、その後ろに否定的な表現が来るときに限られる。ところが、否定的なニュアンスを含む表現ではあっても「不」「非」「無」「未」などの漢語接頭辞による場合には「全然」を用いることはできない。おそらく、「非

論理的」という言葉には「論理的・でない」という「論理的」であることの単純な否定でなく「非論理的」という固有の概念をもった一つの単語として捉えられているためであろう。「非論理的」が「論理的・でない」と完全にイコールでないことは、次の表を見れば明らかである。

	非論理的だ		論理的でない
全然～	×全然非論理的だ	≠	○全然論理的でない
まったく～	○まったく非論理的だ	=	○まったく論理的でない

否定の意味を持つ漢語接頭辞には「不」「非」「無」「未」の4つがあるが、この中で「未」だけは正確には否定ではなく未然（不完了）の意味を持っており、他の接頭辞と性格を異にする。「未」のつく漢字語、例えば「未完成」は「作成を開始したがまだ完成していない」という部分的な否定のニュアンスがある、ところが後で述べるが「まったく」には100%の完全否定のニュアンスがあるために二つの単語のニュアンスに矛盾が生じ、そのために少し違和感のある表現となってしまう。

肯定的な文章に関しては「全然」を用いることはできず、「まったく」のみが用いられる。ところで我々の日常の言語使用を省みると「全然大丈夫だよ」というような言葉を口に出していることに気づく。私たちはこれを辞書に記載されている定義に反する俗な、あるいは新しい用法として捕らえることが多いが、果たしてそうなのだろうか？ 次の会話例を見てみよう。

#### 会話A

—みんなあの人運転うまいって言ってるよね。

—\*そうそう。全然大丈夫だよ。

#### 会話B

—みんなあの人運転下手だって言ってるよね。

—なにあってんの、全然大丈夫だよ。

Aは不自然であるが、Bは自然である。「全然大丈夫だよ」という文だけをとりあげてみると「全然」は肯定の強調を行っているようにも解釈できるが、文章の中で見てみると実は「全然大丈夫だよ=全然下手なことないよ」という「否定の否定」を行っていることがわかる。よって、「全然」は俗な表現においてさえも（少なくともニュアンス上に置いては）「否定の強調」という意味を変化させてないということがいえる。なお、「まったく」には「否定の否定」の用法はない。下のような会話は成り立たないということである。

## 会話C

- あの人、車の運転へただよね。
- \*なにってんの、まったくうまいよ。

以上の議論から、先ほどあげた「全然無関心だ」という文は「無関心ではないというわけでは全然ない」という意味でなら使うことができる。

## 用法早見表

	「全然」	「まったく」
否定用法	○（漢語否定接頭辞を除く）	○
肯定用法	×	○
否定の否定用法（俗とされる？）	○	×

## 視点②意味の差異

### 1 否定的表現を伴う副詞用法

ここでは「不」「非」「無」「未」などの漢語否定接頭辞を除いた否定的な表現への修飾用法にしぼって「全然」と「まったく」の意味の差について考察する。

### ①数量（少数・少量／皆無）

- (a)冷蔵庫に食べ物全然残ってないね。
- (b)冷蔵庫に食べ物まったく残ってないね。

(a)は「料理をするのに必要なだけの材料がない」程度の意味にも取れるのに対して、(b)は「物理的に食べ物が1つも存在しない」というニュアンスを持つ。もちろん語用論的には誇張の意味で(b)を使うことはあるだろうが、意味論的には上のような解釈をすることが可能である。これは、対象が数字で数えられる場合にはもっと顕著になる。

- (a)この授業、日本人が全然いないね。
- (b)この授業、日本人がまったくいないね。

(a)は授業に出席している100人の生徒の中に日本人が10人くらいしかいないとき、(b)は1人もいないときに使われる。

### ②程度（弱い否定／強い否定）

- (a)お前は全然状況がわかってない

(b)お前はまったく状況がわかってない

否定の度合いが (b) のほうがより強く、より攻撃的であるという印象を与える。①とあわせて、「全然」は部分的な否定、「まったく」は完全否定ととらえることもできる。

③文体（インフォーマル／フォーマル）

(a)全然違います

(b)まったく違います

(a) のほうが話し言葉的（≒インフォーマル）、(b) のほうが書き言葉的（≒フォーマル）な印象を与える。

## 2 単独用法

「全然」と「まったく」はどちらも単独で使う場合がありえる。

—まったく、彼はだめなやつだ。

—まったく、もう。なにをしているのよ。

「まったく」以後の部分の強調をしているように捕らえることもできるが、「まあ」や「あら」のような感嘆詞として解釈したほうが自然である。多くの場合、「まったく」だけで言いたいことは伝わるからだ。感嘆詞としての「まったく」は怒っているときや呆れているときに使われる。

「全然」には感嘆詞のような用法はなく、あとに続く言葉を省略するだけである。例えば、

A：あの子美人だよ。

B：全然。

「全然」のあとに「美人ではない」ということばが省略されているのである。「全然」は否定表現と結びつくという前提があるために、聞き手は「全然」という言葉を聞いただけで否定的なニュアンスを感じ取るのである。また「全然～ない」は「～ない」より強い否定を表すから、ここでの「全然」は「いいえ」より強い否定を表すことになる。ところで、次のような会話はどうか。

A：あの子可愛くないよね。

B：全然。

この「全然」は二通りの解釈が可能である。「うん、全然（かわいくない）」、「いや、全然（かわいい）」。全く反対の意味をもつ二つの解釈が可能なので、このような返事の仕方は普通おこなわれず「うん、全然」か「いや、全然」のように前に方向性をあらわす語をつけることになる。

## ■まとめ

「全然」と「まったく」は古くは否定的表現を伴う副詞であったと考えられ、否定表現を伴った用法においてはその意味は似通っている。否定表現における大きな違いは、「全然」は「非」「無」「未」などの漢語接頭辞による否定表現と同時には用いられないが「まったく」は用いることができるということ、ニュアンスとして「全然」は「少数・少量、弱い否定、部分的な否定、インフォーマル」などの属性を持ち、「まったく」はそれと対照的に「皆無、強い否定、完全否定、フォーマル」などの属性をもつということである。

肯定的な表現に関しては、用法そのものに違いが見られる。「まったく」は普通の肯定文につき、「100%そのものである／それ以外のものではない」という意味での強調を行う。一方で「全然」は「否定の否定」としての肯定文につき、「意外に思われるかもしれないが／予想に反して／そうではなくて」などといったニュアンスを付け加える役割を担っている。

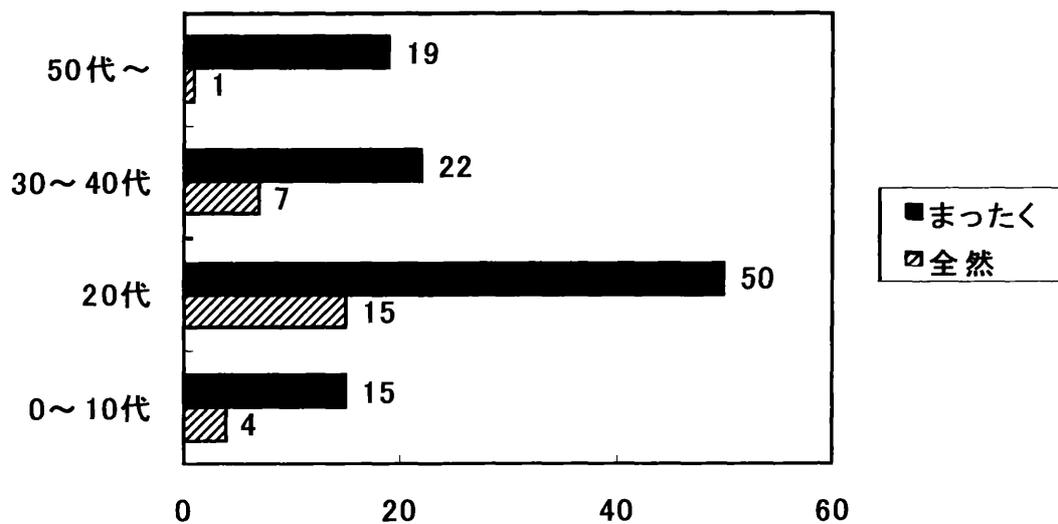
## ■日本語教育の視点から

日常生活での頻度が高い順に上げていくと①否定的な表現を伴う「全然」及び「まったく」②単独用法の「全然」及び「まったく」③「否定の否定」としての「全然」④「排他的」の「まったく」という順序になるだろうから、その順序で教えていけばいい。初級クラスで「全然」と「まったく」の違いに関して教えるときは「肯定文にも使われることがあるが、そのときの用法は二つともかなり異なる」ということだけ教えておけばいいだろう。なお、フォーマルな場面では③と④の順序が入れ替わるので、教える生徒の学習の目的も考慮して教える順番を逆転させることも必要である。

最後に、「全然」の「否定の否定」用法が本来の定義に反しないことは論証済みであるが、年配者や保守的な言語感覚を持つ一部の若者にとっては不自然であったり正確なニュアンスをくみとれない場合が多いので、あくまでもインフォーマルな用法であるということを授業で強調するべきである。

### ■アンケート検証 (2007年12月6日追記)

2007年11月に行われたORF(オープンリサーチフォーラム)において、重松研の展示とともにアンケート調査を行った。被験者はORFの来客と運営側の学生・先生である。質問内容は「□□無関係だ」という文の空欄□□に「全然」と「まったく」のどちらが適しているか選んでもらうものだった。下の図はその結果である。



全般に「まったく」の使用が多かったが、0~10代、20代、30~40代が全然の約3倍強の使用であったのに対し、50代は「全然」と答えた方は1人だけでほぼ全員が「まったく」を用いた。正解は「まったく無関係だ」なので、大半の方が正しく用いているものの世代の変化とともに「全然」が一般否定表現化してきたのだという結論に至った。

執筆者  
伊藤貴祥  
編集者  
武政美希

## 意外に・結構・割に

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 【意外】

当面する事態や実際の結果が予想と全くかけ離れたものであって驚きを感じる様子だ。

〔口頭語では「意外に」を「意外と」とも言う。〕

例：「意外と安く買えた」

#### 【結構】

(そのものの品質・程度が) 一般の予想に反して、軽視できないものだと判断する様子。

例：「古い機械だが意外と役に立つ/簡単そうで意外と手間のかかる仕事なのだ」

#### 【割に】

一方の程度から、一般的に予測される他方の程度。

例：「値段の割にまずい料理/がんばっている割に成果が見られない/幼い割にはしっかりしている」

(「結構」は他にもいくつかの意味があるが、ここでは副詞としての用法の際の意味のみを記した)

どれも予想と実際が違う、という事を表すという意味では同義の言葉である。

実際日常生活においてもこれらの単語の正確な使い分けは非常に難しく、どちらかといえは状況に応じて言い換える事の方が多い。

### ■用例分析

意外に重い／結構重い／割に重い

意外に難しい／結構難しい／割に難しい

意外に当たる／結構当たる／割に当たる

### ■考察

#### 視点①予想との差の程度

基本的にどれも予想とはちがった状態を表す言葉であるため、どれかの言葉しか使えないような状況は少ない。しかしながら、言い換えることによってニュアンスが変化してくる。

これらの違いとしては、まず「意外」が最も予想と現実との差が激しい。例えば鉄の様に見える実は発泡スチロールで出来た物を持った時。これは「意外と軽い」状況である。残りの二つの言葉には大きな差はない。この二つの違いは「割に」よりも「結構」の方が若干予想と現実の差が大きいという点であると考えられる。

しかしながら、これらはいくまで程度の違いを表すものに過ぎない。その為、どの言葉も同じ状況で使用できてしまう事が多いのである。

#### 視点②丁寧さ

「割に」という言葉には若干気安いイメージがあるように感じられる。その為、たとえば敬語を使用するような場面においては「割に」を「結構」に置き換えたりすることも多い。これは、「結構」という言葉の持つ他の意味として例えば茶道の際に使用される「結構なお手前で」というような正式なイメージが影響していると考えられる。

#### ■まとめ

現実と予想の差の大きさを並べると、「意外に」>「結構」>「割りに」の順になる。

「結構」は丁寧な言葉であり、フォーマルな場で好まれる。

#### ■日本語教育の視点から

この三つの言葉の使い分けを教えるのは難しい事であると考えられる。基本的には同じ意味である以上これらの使い分けを習得するためにはその言葉の持つニュアンスを把握していなければならない。

そのニュアンスの違いを表すとすれば「意外」>「割に」≒「結構」であり、「割に」と「結構」の二つの違いとしては「結構」の方がより丁寧な言い方である、といったところだろうか。

執筆者

野村銀河

編集者

上田智哉

## すぐに・まもなく・やがて

※同じ時間に関する副詞である「いつか」も考察対象とする。

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第四版)

すぐに 【副詞】①何かをした後、行動を起こしてから時間を置かず次の事が行われることを表す

②距離があまり離れていないことを表す

まもなく 【副詞】あまり時を置かないで、その状態が実現することを表す

やがて 【副詞】①その時点からさほど時間を隔てていないことを表す

②最終的にそのような事態に立ち至ることを表す

③その状態を変えることなく次に時を置かず何かを行うことを表す

### ■用例分析

例1 すぐに結婚式が始まります。

まもなく結婚式が始まります。

やがて結婚式が始まります。

例2 すぐに電車がまいります。

まもなく電車がまいります。

やがて電車がまいります。

例3 いつか冬が終わり、春がやってくる。

やがて冬が終わり、春がやってくる。

### ■考察

#### 視点①期間

すぐに	短い
まもなく	↓
やがて	長い

- 例1) —— 式が始まります。  
 すぐに・・・ 席に移動し、着席する時間もない。  
 まもなく・・・ 席に移動し、着席する時間は十分ある。  
 やがて・・・ 始まるのはずっと先。いつ始まるのかは不明。

#### 視点② 確実性

すぐに	確実
まもなく	↓
やがて	不確実

- 例2) —— 電車が参ります。  
 すぐに・・・ 電車は2～3秒のうちに来る。絶対来る。  
 まもなく・・・ 電車は一分以内に来る。来ることはほぼ間違いなし。  
 やがて・・・ もしかしたら、電車は来ないかもしれない。

#### 視点③ 口語と文語

- 「まもなく」は日常語ではなく、丁寧で書き言葉によく使われる。  
 「すぐに」は日常語で頻繁に使用するため、他の二語に比べ、やや子どもっぽい印象を与える。  
 「やがて」は文語である。口語ではあまり使わない。来たる未来のことを話すときに使用する。

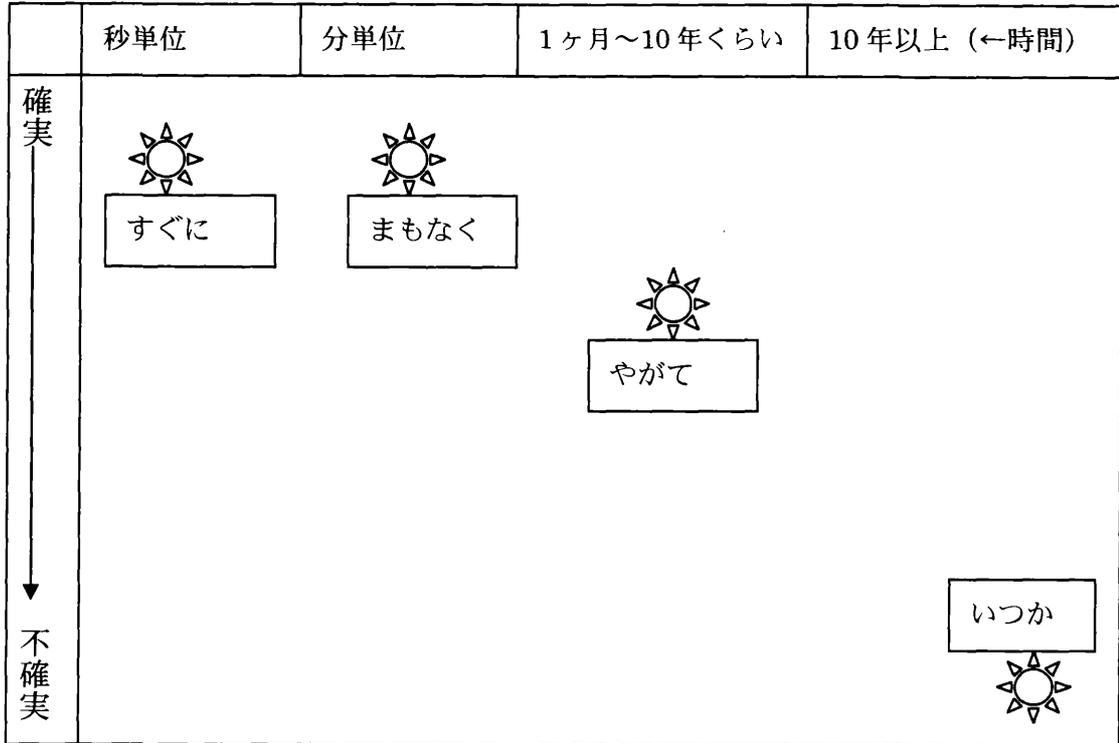
#### 視点④ 「いつか」と「やがて」の確実性

- 例3) 冬が終わり、—— 春がやってくる。  
 やがて・・・ やってくる未来の話。春が来ない可能性はあまり考えられない。  
 いつか・・・ 春が来ない可能性も考える必要がある。来ない確率の方が大きい。将来の夢を語るなどによく使うので、期間は10年以上。「私はいつか大物になるのよ！」

例2)、例3)より、「やがて」は、電車が来るという短い期間では不確実を感じるが、季節が変わるといって3ヶ月ほどの期間では、それほど不確実であると感じることはない。

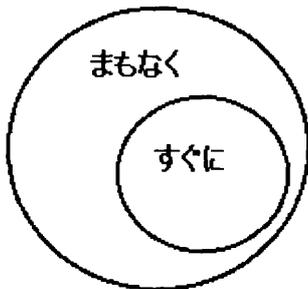
時間と確実性というものは、互いに関係の深い概念なので、この二つを全く別物として捉えるのは良くない。時間が短ければ短いほど、その事象は確実に起こるし、時間が長ければ長いほど、その事象が不確実になるということがあるからだ。

図：確実性と時間の関係



視点⑤主観と客観

「すぐに」と「まもなく」は以下に図示した関係であり、指摘する内容が時間軸上の同じ点を指す場合も起こる。



例① “すぐに、と、まもなく”

- a. すぐに行きます。
- b. まもなく行きます。

例② “すぐに、と、まもなく”

- a. すぐに救急車を呼びます。
- b. まもなく救急車を呼びます。

上記の例を比較した結果現れた「すぐに」と「まもなく」の相違は以下の通りである。

すぐに	主観的判断を述べる（感覚的）・話し言葉的・一人称に用いる
まもなく	客観的事実をのべる（物理的）・書き言葉的・一人称には用いない

### ■まとめ

「まもなく」「すぐに」「やがて」は時の経過を表す語であるという共通点がある。それぞれの相違点は以下のとおりである。

	すぐに	まもなく	やがて
時間軸の相違	早い	→	遅い
確実性の相違	確実	→	不確実
主観と客観の相違	主観的判断（感覚的）、口語的、一人称にもちいる	客観的事実（物理的）、書き言葉的、一人称には用いない	書き言葉的

### ■日本語教育の視点から

#### 1. 翻訳による指導

名詞などの、学生の母国語と日本語の意味が一致する場合には、翻訳によって意味の違いを指導するのは効率的な方法である。しかし今回の場合は副詞であり、意味がぴったり一致する単語を見つけるのは困難であり、学習者が間違った理解をする恐れがある。

#### 2. 視覚と例文による方法

今回の3つの単語の違いを説明するためには、視覚的に説明を行い、その後例文を使用して学習者が正しく理解したかどうかを確かめる方法が効果的と考えられる。



上記のように時間の矢印上に、早い出来事は「まもなく」であり、遅くなるにつれて「すぐに」、「やがて」と変化することを示す。確実性の相違も同様に提示する。その後、学習者のさらなる理解促進と、教師が学習者の理解状況を判断するために、例文を使用する。

例. 太郎は手紙を読むと（すぐに）家を飛び出した。

また、二通りの回答が当てはまる場合は、二つの文の与える細かい意味の相違点を話し合うのも良い方法だと考えられる。

執筆者

中本綾子 平山剛 別所佑子 石田充 副田邦生 戎屋紘子 高橋若菜

今井蘭泉 森下泰行 柿本小百合 高橋怜子 中村苑子 富田夏子 中村久子

飯田恭央 加藤聖人

編集者

佐々かおり

## ～していただけますか・～していただけませんか

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

\* 「～していただけますか」「～していただけませんか」として辞書には記載されていない。

### ■用例分析

電気をつけていただけますか？

電気をつけていただけませんか？

### ■考察

#### 視点①丁寧の度合い

「～していただけますか」と「～していただけませんか」は、両方とも質問形式を取っており、わたしたちは相手に何かを頼みたいときに使っている。また、語尾に「です・ます」調が付いていることから、【目上の相手、もしくは親密でない人】に対して使う丁寧なことばであることも分かる。このふたつの言い方は依頼をしているという点では同じ意味を成しているが、語尾を注意してみると「ますか」(肯定)であるか、「ませんか」(否定)であるかどうかの違いがある。語尾が肯定であるか否かによってあらわれるニュアンスの違いというものをこの意味分析では検証していこうと思う。

電気をつけていただけますますか？

電気をつけていただけませんか？

上のような質問を訊かれたら、わたしたちは「この人は電気をつけてほしいのだ」と解釈して、電気を付けるであろう。つまり、語尾を肯定の形にしても否定の形にしても質問の意図に大差ないのである。ただし、両文を比較すると、若干ニュアンスが異なると同時に、敬意の度合いが違うように感じてしまうことは否めない。この意味分析をするに当たって、敬語の知識は不可欠だと思うので、まず日本語の敬語表現の実態を調べていきたい。

### ◆日本語の敬語表現

敬語表現については、ベネッセ表現読解国語辞典(ベネッセコーポレーション、2003年)の付録として「敬語表現部」の中に詳しく書かれていたので、それを参考にすることにする。

### w 待遇表現>敬語表現？

まず、待遇表現とはなにか。待遇表現とは、話し手が聞き手や話題の中の人物に対し、その社会的人間関係に応じて尊敬や親愛、卑しめなどの気持ちを言い表す表現であるという。

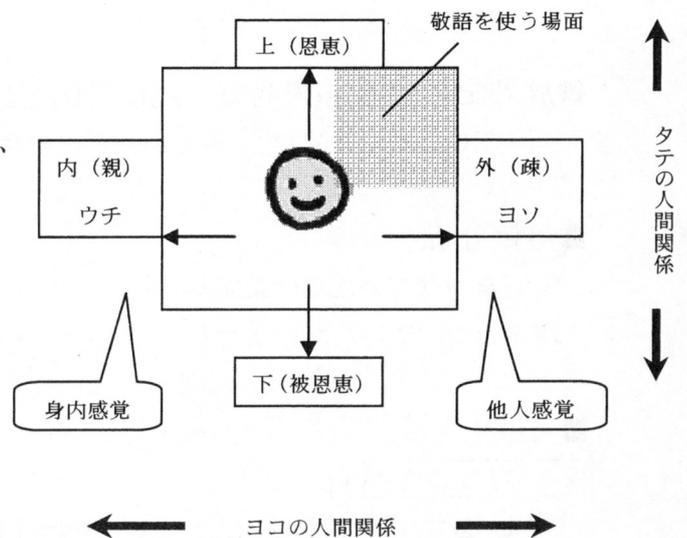
日本人は以下のような図式で社会的人間関係を捉えている。

①<タテの人間関係>

=相手が自分より(年齢・地位等が)上か下か。相手から恩恵を受けるのか、施すのか。

②<ヨコの人間関係>

=相手が心理的に自分と親しいか親しくないか。同じ社会集団(家族・学校・会社等)に属しているかいないか。



狭義の敬語法<sup>1</sup>は、話し手がことばを選択して、聞き手や話題の人に対して敬意を示す言い方を言う。上図の水色で示した社会的人間関係の場面で用いられる。

w 相手を尊敬する気持ちがこめられているわけではない場合も

敬語には、相手に対して自分は従順である、危害を加えない、ということを示す意味合いが含まれている。つまり、敬語を使うということは、相手との距離を隔て、相手から自分の身を守ろうとするものであり、相手に対しての一種の「なだめ行動」であるとも考えられる。したがって、非常に親しい人間関係では、結果として敬語が使用されない。見知らぬ人に対しては、幾つもの敬語を(多くの場合、1つ以上)用いて会話をしている。(例：申し訳ございませんが、郵便局への道順をお教えくださいませでしょうか?)

一般的にわたしたちが学校で習った敬語というのは、話題の中の人物に敬意を示す「尊敬語」「謙譲語」と、聞き手に直接敬意を示す「丁寧語」に分けられていたと思う。そこで、両語に共通する「いただく」というものがどういうものなのか見てみる。

【いただく】(戴く・頂く)  
「もらう」の謙譲語  
〔接尾語的に〕他の人に何かをしてもらう。  
「・・・させていただく」  
=①何かをすることについて相手の承諾を求める。  
=②『いたします』の婉曲表現

<sup>1</sup> その他の敬意を表わす表現として「あらたまり語」「婉曲語」「丁寧語」「美化語」があるが、ここでは触れないでおく。

上の定義を見ると、「いただく」は謙譲語であり、話し手が、その話題の中で行為の向けられる人を敬う言い方であることが分かる。例えば、

Aさん：「ぜひ明日そのお話をしていただきたいと思うのですが」

Bさん：「了解です」

という会話があったとしたら、AさんはBさんに向けて行為を向け、したがって「いただく」の対象（敬われる対象）となっているのはBさんである。【Aさん⇒⇒⇒Bさん】

次に、「いただく」の次に置かれている「ます」「ません」について考えたい。

「ます」というのは、丁寧の助動詞（特殊型）であって、表現を丁寧にしようとする気持ちを表わすときに用いる。「です」「ます」調（ていねい体）は「だ・である」調（普通体）の反対に位置し、話し手が聞き手に対して直接敬意を表わす言い方である丁寧語という分類に入る。例えば、

Aさん：「これが先生からのお手紙です」

Bさん：「ありがとう」

という会話があったとしたら、AさんはBさんに向けて直接行為を向けているので、「お」のような接頭語や「です」のような助動詞はAさんからBさんに対する敬意を表わしたものであるといえる。【Aさん⇒⇒⇒Bさん】

#### 視点②否定表現<sup>2</sup>

日本人は否定が好きな民族なのではないだろうか、と思うことがある。なぜなら、日本語には否定的な表現が多いように感じるからである。「いいんじゃない？」「貸してくれませんか？」という日常で何気なく使っているフレーズの中にも、否定表現は入り込んでいる。2重否定は日常茶飯事、3重否定も別に驚くほどではない。なんと、7重否定さえも可能なのである。以下例。

- 3重否定：やらざるを得ないんじゃないのかなあ。
- 4重否定：必ずしも行かなくちゃいけないってこともないじゃないですか。  
[最近はやりの「じゃないですか」言葉]
- 5重否定：（こんなに仕事が遅れていると言うことは、）彼にはやる気がないんじゃないかって思わざるを得ない じゃありませんか。
- 7重否定：彼の態度を見ていると、この事業は絶対成功させなくてはならないことが分かって ないんじゃないかって考えざるを得ない じゃありませんか。

<sup>2</sup> <http://www.hil.t.u-tokyo.ac.jp/~sagayama/essay/denial.html> 参照

7重否定ともなると、肯定と否定が7回もひっくり返る論理を論理的に追うことなど普通ならほぼ不可能と言ってよいだろう。もし英語で上の内容の逐語訳を聞かされたら、まず理解できないだろう。しかし、日本語の場合は不思議なことに、実際に対話の中で出てきたら特に気に止めないで相手の言う意味を理解する。こんな言語を持っている民族は他にいないのではないだろうか。(←この文も2重否定である)

もちろん、英語にも否定表現を用いる例文もあるが ("Don't you think the plan is good?","Why don't we go out for dinner today?")、英語ではわざわざ否定文に直さずに肯定文のまま直接的に言う場合が多い。ちなみに上に挙げた2例は慣用句的な表現であり、日本語の否定表現と同じ感覚で使えるものである。ただ大抵の場合、英語では否定のことばを使うと、その文自体が否定的な方に進んでしまうように感じる。(あるいは「否定」に重点を置きたいかのように思える) また、隣国の韓国ではどうかというと、韓国語は日本語と非常に似ていて、会話の中の「～じゃない? (～가 아니냐?)」のような表現は、同じく頻繁に使われているようだ。しかし、依頼をするときはというと、「～してください (～주세요)」のような直接表現しか用いないようである。

それでは、なぜ日本人は否定表現を使いたがるのか。これはやはり、物事をストレートに言うのを避ける日本人独特の『柔らかな表現<sup>3</sup>』が関係してくると思う。○○じゃないのかな? というのは○○だよと同じ意味であるが、語尾に否定の語が加わっただけで、自分の発言を抑えた謙虚な気持ちが伝わり、会話がよりスムーズに流れたりする。例えば自分の中の○○への考えが明らかであっても、わたしたちは無意識のうちに否定語をお尻にくっつけて会話をしている。また、場合によっては、その文を強調したいがために否定文にすることもある(レポート等でもよく書くフレーズだが、「○○なのではないだろうか」は○○であろうよりも強い断定力があるように感じる)。

## ■まとめ

では、これまで調べてきた「いただく」「ます」「ません」の定義や用法を踏まえて、1ページの例文を思い出してほしい。

①電気をつけていただけますか?

②電気をつけていただけませんか?

①の文では、謙讓語 (いただく) + 丁寧語 (ます)

②の文では、謙讓語 (いただく) + 丁寧語 (ます) + 柔らか表現 (否定)

という構造になっている。

<sup>3</sup> 柔らかな表現としては、『否定表現』以外にも、「～とか」「～みたいな」のような『曖昧表現』や、「られる」などの『受身表現』などが挙げられる。

①②両文とも敬語表現を2段階んでおり、どちらも聞こえは丁寧な依頼文である。

#### 《ますか?》のとき

直接的に訊いている。交渉する場面や、切羽詰って人に押し付けたいことがあるときなど、相手がイエスと言わざるを得ないケースにおいては、「ますか?」を使用する傾向がある。質問の内容によっては、相手に対して『強要』をしているようであり、少々自分勝手な響きがある。英語で言えば、Please～、Would you～?、Could you～?に当たることばであるように思う。

ソースを取っていただけますか?

(Could you pass me the sauce for me?)

#### 《ませんか?》のとき

①の文に加えて、文末に柔らか表現としての「否定」が入ることで、3段構造になっている。最後に否定を加えると、相手にしていただかないことを前提としており、【もしよろしければ・・・していただくと嬉しいのですが】という相手に対する配慮と謙遜が見られる。したがって、直接的な質問になっている①よりも、婉曲表現を取り入れた②の方が、より丁寧度が増しているように思われる。見知らぬ人や、先輩、先生などの目上の人と話すことが多いわたしたちは、どちらかという①よりも②を使うことが多いと思う。(もちろん、わたしたちは普段あまり意識しないで①と②を混合して用いていると思うが)

また、丁寧度が増すと同時に、依頼を婉曲に言うことによって依頼度が高まるときもある。例えば、足を骨折した人が電車で席を譲ってもらいたいときに、「席を譲っていただけますか?」と訊くよりも「席を譲っていただけませんか?」と訊くほうが丁寧であることに加え、切実感が伝わり、軽々と断られたら困るという思いが含まれているように思う。そして、「ません」の後に「でしょう」を付けると、よりかしこまった言い方になり、丁寧度が高まることに加え、他人感覚を強くなる。

英語で言うなら、Do you mind～?、May I trouble you to～?、Would you be kind enough to～?などのような表現に当たることばであるように思う。英語では依頼のときには否定表現を用いずに、上記のように「you」が主体となって、わたしがこんな依頼をしてもいいですか?のように許可を求めている内容になっている。

ドアを閉めていただけませんか?

(May I trouble you to shut the door?)

#### ■日本語教育の視点から

「～ていただけますか?」「～ていただけませんか?」には丁寧度の差だけではなく、返答への期待という観点から適切な選択をおこなうことが望ましい。ただしこのような現象

は多くの言語に存在するはずなので、生徒の母語言語での例などを挙げて説明すればそれほど難しくはないであろう。むしろ、日本ではどんな依頼が当然で、どんな依頼がそうでないのかという文化的な側面を教えることが大事である。

執筆者

朴廷珍 伊藤貴祥 別所佑子 石田充 戎屋紘子 副田邦生 黄佳瑩

富田夏子 中村苑子 中村久子 森下泰行 加藤聖人 若月亜由美

編集者

田邊寿子

## 人称代名詞

そちら・あなた・あんた・きみ  
おたく・おまえ・てめえ・きさま

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

そちら……「そっち」のやや改まった言い方。

「出口はそちらです/もうそろそろそちらに着くころだと思います/そちら(様)と一緒させてください」

あなた……Ⅰ【彼方】「向こう」の意の雅語表現。

Ⅱ【貴方】自分と同等程度の相手を軽い敬意をもって指す言葉。

「あなた様/あなた方」

〔Ⅱの口頭語形は「あんた」〕

※運用Ⅱは、古くは高い敬意を表した。現在では敬意が下落し、同等以下の相手にも用いられる。特に男性が、目上の人や初対面の人に用いると、見下したような印象を与えやすい。また、友人どうしても相手と一定の距離を置いて接する場合に用いられることもある。夫婦間では、妻から夫への呼称として用いられる。

※表記Ⅱは、男性は「{貴男}」、女性は「{貴女}」とも書く。

あんた……「あなたⅡ」の口頭語形

きみ……Ⅰ①主君や目上の人に対する敬称。〔結婚披露宴の媒酌人の挨拶や告別式の追悼の辞などの中で、軽い敬意をもって、その人を指すのにも用いられる〕

「きみに誠を尽くす/師の君〔=先生〕/背の君〔=夫君〕

②〔接尾語的に〕親族名称などに付けて用いる敬称。

「父君・姉君・若君・姫君」

Ⅱ〔男性が〕同輩(以下)の相手を指す(に親しみの気持をこめて呼びかける)語。

おたく……①相手の家の敬称。

「旦那様はおたく〔=ご在宅〕ですか」

②〔代名詞的用法〕あなた(の所)。〔より丁寧には「お宅さん」「お宅様」〕

「おたく [=あなたの会社] の景気はどうですか？」

③〔俗に〕趣味などに病的に凝って、ひとり楽しんでいる若者。

〔同一の趣味を持っていても、親しい間柄ではないので、相手に対して、「おたく」と呼びかけるとこりおから〕

「アニメおたく・おたく族」

※運用②は、それほど親しくない相手に軽い敬意をこめて呼びかけるとき用いられる。

おまえ……〔もとは、同等以上の相手に対する表現〕同等、または目下の相手を指す語で、二人称のぞんざいな言い方。おまい。

※運用(1)男性が近い関係にある相手に用いる場合は、親しみの気持がこめられる。

(2)「おまえさん」の形で、丁寧さをよそおって相手に呼びかけるのに用いられる。例、「おまえさんそれでも大学を出たと言えるのかね」

てめえ……〔東京などの方言〕「手前」のぞんざいな言い方。貴様。

きさま……男性が、見下している同等(以下)の相手、また、特に親しい間柄の相手に呼びかけるのに使う語。おまえ。〔本来は敬意の込められた語であった〕

## ■用例分析

「そちら」 「そちらはどなた？」「そちらの意見をお聞かせ下さい」

一方（自分や他者）に対してもう一方に呼びかける際に用いる。

対等もしくは目上の人間に丁寧な表現として使う。

「あなた」 「ねえあなた」「あなたはどう思う？」「あなたは誰ですか？」

相手に対して呼び掛けるとき。対等な関係の相手に対する丁寧な呼び方。

妻が夫を呼ぶ際にもよく用いられる。先生が生徒を丁寧に呼ぶ際に用いる。

「きみ」 「そのきみ！止まりなさい」「きみのことが好きなんだ」「きみは誰？」

対等か目下の人間に使う。先生が生徒に対してフランクに呼び掛ける際にも用いられる。

「あんた」 「あんたどっから来たんだい？」「あんたも馬鹿ね。」「あんたのせいよ！」

「あなた」の砕けた表現。丁寧さは失われ、くだけた印象になる。

対等か目下の相手に対して親しみをこめて用いる。

「おたく」 「おたくの息子さんは立派ねえ」「おたくのやり方は間違ってる」

家庭対家庭、会社対会社など、集団を意識した会話でよく用いられる。若干の距離感があり、対等な関係での丁寧な表現。

- 「おまえ」 「おい、おまえ」「おまえの方がよくやってるよ」「おまえのせいだろ」  
 対等もしくは目下の人間に用いる。友人同士で男性がよく用いる、親しみを込めたことば。やや乱暴な印象なので女性はあまり使わない。また、夫が妻を呼ぶ際によく用いられる。
- 「てめえ」 「てめえ、なかなかやるな」「てめえふざけんなよ」  
 対等か目下の人間に用いる。非常にくだけて乱暴な印象で、激怒した際に使われるイメージ。ふざけて怒ったふりをする際に用いる人が多い。男性がよく使う。
- 「きさま」 「きさま誰だ!?!」「きさまの息の根止めてやるわ」  
 敵対する相手に対して使う言葉。他の人称代名詞と比べると使用頻度は非常に低いが、時代劇などでよく耳にする。乱暴な印象で、男性が使うことが多い。

## ■考察

### 視点①丁寧さと立場

「そちら」>「おたく」>「あなた」>「きみ」>「あんた」>「おまえ」>「きさま」>「てめえ」

丁寧さに上のような関係はある。目上の人に「おまえ」以下を使うことはできない。「あなた」も場合によっては危うい。ただし、「あなた」に関しては、後ろに「様」をつけ、「あなた様」とすることで、「お客様」と近い丁寧さを付与することができる。それぞれにふさわしい状況や相手との立場があるので、用例や解説を読み注意深く使い分ける必要がある。

### 視点②感情表現

上記の配列で「きみ」以下の同輩あるいは目下の人に使う言葉に注目する。立場によって、特定の人物に対して呼びかける最も確かな二人称代名詞は一つに定まる。が、最もフランクな会話、つまり立場という固定された状況を見捨てた会話になる友達同士では、感情的になることがある。普段「きみ」と呼びかける友達に対して、蔑みや怒りを表し、「おまえ」や「きさま」と呼ぶこともある。

もちろん、「おたく」や「そちら」と呼びあう関係でも、頭にきて「おまえ」や「きさま」と呼ぶこともある。こちらの方が、タテマエを重視する日本社会ではギャップが激しく、感情表現としても強く感じられる。

### 視点③時代

時代によって、単語そのものの意味が変化している。

特に、「きさま」という語は、今でこそ下品な言葉になっているが、もともとは「貴様」

→あなたさまの意味であった。

「きみ」の意の変化は激しい。本来は主君を表す尊敬語であり、国家「君が代」のように、「きみ」と言えば天皇を指していた。ところが、現在では目上の人に対して使うと失礼な言葉となっている。

以上、時代によって、代名詞の丁寧さの順列が変化することがある。

## ■まとめ

丁寧さと立場によって使い分けされる。

使い分けによって、感情を表現する。

時代で意味が変化する。

## ■日本語教育の視点から

一人称代名詞「わたし」から二人称代名詞「あなた」と対応させて導入するのが一般的である。他の二人称代名詞はネイティブの感覚に近いので、教えるのはずっと先のことになる。「おまえ」や「てめえ」はできれば教えたくないところだが、求められたら、怒っている演技をして、「なにをやるんだおまえ」のように言い放つとよく伝わると思う。

執筆者

中本綾子 真後広子 平山剛 戎屋紘子 石田充 副田邦生 別所佑子

中西俊輔 高橋若菜 高橋怜子 今井蘭泉 森下泰行 中村苑子

中村久子 飯田恭央 富田夏子 加藤聖人

編集者

佐々かおり

## らしい・ようだ

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 【らしい】

I …といわれるだけの諸条件を十分に備えている様子だ。

「学者らしい学者/外遊中、和服で通したとはいかにも彼らしいね/チャンピオンチームらしからぬ [=にふさわしくない] 試合運び」

II そう判断出来るだけの客観性のある根拠をもとにして推定することを表す。

〔婉曲な断定にも用いられる〕

「外は暑いらしいね/雨が降り始めたらしい/髪の毛は長いが、どうやら男らしい/彼の力ではこれをするのがやっらしい」

※運用 II について。(1)自分の発言に対する責任を回避しようとする表現に好んで使われる。

例えば、当人から直接そのことを聞いたり、その事実を見届けたりしていながら、他の人に「…さんは会社をやめるらしいね。/『…さんはどこ』『もう帰ったらしいよ』」などと言う。(2)場面や文脈などから「…らしい」の「…」が明確な場合には、「らしい」だけが用いられることもある。例、「『彼も合格したそうだ。』『らしいね』」

#### 【ようだ】

①ある事柄が、それに似ている何かを思わせるという判断を表す。

「専門家が作ったようだ/まるで本物のようだろう/飛ぶように売れた/猫の目のように変わる/まるで他人事のように/恥ずかしいような気持/バールのような物でこじあけた跡があった」

②条件にかなうものを具体的に例示することを表す。

「スキーのような冬のスポーツ/この辺のように便利な所がいい」

③明確な根拠は無いが、そう判断しうることを表す。

「あまりよくないようだ/問題がやさしすぎたようで、みんな点がいい/気の遠くなるような/酷なようだが [=酷かもしれないが]」

④すでに述べた(これから述べる)内容を指示することを表す。

「要約すれば以上のようなのである/ご承知のように」

⑤願望・依頼・注意などの内容を表す。

「一日も早く全快なされますように/すぐ来てくれるよう(に)頼みなさい/遅れないように早めに家を出る/風邪をひかないように注意しよう」

〔②は、「ようだ」の形は使わない。また⑤は「ように」の形しか使わない〕

## ■用例分析

### 例1

- ①道路を歩いていたら、なんか人がざわざわしている。人に聞いてみる。「どうしたのですか？」ふむ。「事故があった“らしい”」
- ②道路を歩いていたら、なんか人がざわざわしている。覗いてみる。ぺちゃんこになった車が！「事故が起こった“ようだ”」

### 例2

- ①私どうやら単位を落とした“らしい”
- ②私どうやら単位を落とした“ようだ”

これら二つの例文を見てみて、①の「らしい」は自分では確認していなく、人から聞いた伝聞の状態であることがわかる。自分では事実を確認できていない。それに対して②の「ようだ」は自分で確認をして確信している状態である。例1ではつぶれた車を見ているし、例2では成績表をみの発言であることがわかる。

ここから更に考えてみると、

### 例3

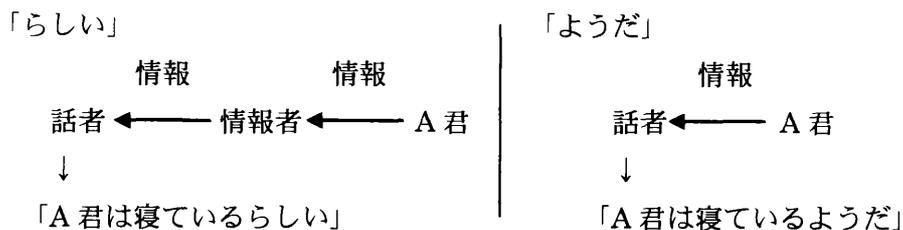
- ①東京駅に着いたとき、看板がある「東京に着いたらしい」
- ②東京駅に着いたとき、看板がない「東京に着いたようだ」

この場合は少し難しく、看板という証拠を自分で見ているから看板がある場合は「ようだ」を用いるのではないかと思ってしまう。しかし、①は、自分では今どこにいるかを把握していなく、外部の情報（看板）から東京に着いたということを知るため「らしい」を用いる。②の方は、看板で確認は出来ていないが、自分の中では自分の感覚、例えば、電車に乗っている時間から今は東京かな、とか、外の景色から東京である、などを頼りに推測している。そのため「ようだ」を用いる。

## ■考察

### 視点①直接情報か間接情報か

次のようなグラフがわかりやすいだろう。



つまり「らしい」が A さんの客観情報を情報者から間接的に得ることで自分の中で予測し、それをことばとして出しているといえる。「ようだ」は自分で直接得た情報を元に意見を述べていることばである。ここで重要になるキーワードは、「確信の度合い」である。

「らしい」は外部の客観情報からの推量であるため、自分の確信の度合いは客観情報の信頼性・確実性に依存する。それに対して「ようだ」は自分が直接見た情報なので言葉に含まれる確信は強いといえる。しかしながら断定しすぎると相手に失礼に当たるため、それを和らげるために「ようだ」を使っている。

また、家の中から窓を通して人がドアに近づくのを「見て」、「誰か来たらしい／ようだ」のように言うのは、かなりの確信率がありながら言っているので、「断定を避ける」だけのために「らしい／ようだ」が使われている。

#### 視点②名詞接続時の意味の差

	一致	不一致
らしい	○彼女は女らしい	×彼は女らしい
のようだ	×彼女は女のようだ	○彼は女のようだ

上の表から分かるように、「Xらしい」は本来 X であるものが、X を代表する性質を見せていることを示す。逆に「X のようだ」は本来 X ではないものが X を代表する性質を持っていることを示す。よって「春らしい日」は春であり、「春のような日」は春ではない。

「っぽい」(男っぽい、子供っぽい) や「みたい」(外国人みたい、芸能人みたい) は「のようだ」と同じ性質を持つ。「男っぽい人」は女であり、「芸能人みたいな人」は芸能人ではないという前提が存在する。

ところが、最近では女性に「男らしいね」などということが許容されるらしい。「男らしい」ということはそういわれる対象が男であることを前提に言われる文であるから、それをわざと女性に使うことに面白みを置く冗談として発するのなら今までの議論で説明ができるのだが、実際には「男っぽいね」と同じ意味で使われているということである。

#### ■まとめ

「らしい」…間接情報からの推量、確信の度合いはその間接情報の信頼性に依存

「ようだ」…直接情報を得た確信のある発言、あくまで断定を和らげる働きをしている

## ■日本語教育の視点から

「らしい」「ようだ」の推量という基本的な意味は、生徒に推量を言わせるような状況を設定するとよい。例えば、ある人物の部屋の絵を見せて、部屋に置いてあるモノから、人物の趣味や職業などを当てるような質問を学生に投げる。「Aさんは何が趣味ですか？」のような質問を出す。学生はサッカーボールを見て「Aさんはサッカーが好きです。」と答えれば、そこから「本当ですか？」とびっくりしてみせて、あくまでAさんはサッカーが好きであることは推量でしかないことを感じさせれば、「Aさんはサッカーが好きなようだ。」という一文は自然に出てくる。これで導入は完了である。

「らしい」と「ようだ」の違いについては、**視点①直接情報か間接情報か**をポイントにして教えるとよい。図にして表すことができるので苦勞しないと思われる。

執筆者

朴廷珍 伊藤貴祥 戎屋紘子 副田邦生 石田充 別所佑子 黄佳瑩 富田夏子

中村苑子 中村久子 森下泰行 加藤聖人 若月亜由美 内山恵

編集者

四元憲太郎

# とる

## ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

### 【取る】

- ①何らかの(必要があつて)その物をもとの場所から移して一時自分の手の中に置く。  
「手に取って見る/手を取って教える/手に手を取って/おかずを小皿に取る/取るものも取りあえず駆けつけた」
- ②さしあたって必要ないものとして、その物をあつた場所から除く。  
「草を取る/痛みを取る/腐った所を取る/命を取る[=殺す]/かたきを取る[=a 殺す。B 復讐する]/ネズミを取る/眼鏡を取る[=はずす]/帽子を取る[=ぬぐ]」
- ③自分にとって必要(有効)なものを、何らかの方法で手に入れて自分の物とする。  
「学位を取る/ワラビを取る[=採取する]/食事を取る/栄養を取る/嫁を取る[=迎える]/師匠を取る[=だれかを師匠として何かを学ぶ]/光を取る[=導き入れる]/金を取る[=a 盗んだり奪ったりする。]b 代金として徴収する/罰金を取る[=徴収する]/休暇を取る[=取得する]/弟子(新卒)を取る[=採用する]/新聞を取る[=購読する]/注文を取る[=受ける]/そばを取る[=注文して、届けさせる]/天下を[=支配する]/いい席を取る[=確保する]/宿を取る[=宿泊する宿屋を決める]/車間距離を十分に取る[=保つ]/間合いを取る[=必要な間隔を保つ]」
- ④手(にした道具など)を使うことによって意図する作業や仕事などをする。  
「新聞に筆を取る[=文章や絵を書く]機会を得た/事務を取る/捜査の指揮を取る/写真を取る[=写す]/講義をノートに取る[=筆記する]/手拍子を取る/舵を取る[=操って、船を進める]/型を取る[=型に従って、それと同型の物を作る]/脈を取る[=a はかる。b 診断する]/尺を取る[=計測する]/丁合を取る[=丁合]/出欠を取る[=実際に調べる]/かるたを取る[=して遊ぶ]/すもうを取る/床を取る[=延べる]/機嫌を取る」
- ⑤自分なりに考えて対象の中からそれを選ぶ。  
「名を捨てて実を取る/多数決を取る/そのやり方はあえて僕の取らない[=選ぶことをいさぎよしとしない]所だ/先方の申し出をいい意味に取る[=解釈する]/取るに足らぬ[=問題にするだけの価値が無い]/身近なことを例に取る[=上げる]」
- ⑥何かをするのにそれだけの時間や空間を必要とする。  
「大きすぎて場所を取るので困る/むだな時間を取る/手間を取る」
- ⑦望んだわけではないのに、そういう事態を身に被る結果となる。  
「不覚を取る/汚名を取る/ひけを取る/年を取る/責任を取る/仲介の労を取る」
- ※表記 一般に、採用(採取)する意では「採る」、捕獲する意では「捕る・獲る」、「事務をとる」は「執る」、ぬぐ意では「脱る」、摂取する意では「摂る」、ぬすむ意では「盗る」、「写真をとる」は「撮る」と書く。「舵をとる」は「操る」とも書く。

※意味と使い方(教育社 学習漢字のつかいかた辞典より)

「取得・採取・取材・取捨」などのように、とる、手に入れる、えらびとる、といった意味で用いるのが基本である。

「と-る」には、広く「取」を当てるが、写真にうつすという意味で「撮る」、動物とかえものをつかまえるという意味で「捕る」、「筆をとる・事務をとる」のような例では「執る」、「採決・採用・採集・採血」などに言いかえられる場合は「採る」というように使い分けられる。

## ■考察

「とる」で使われる主な漢字は、「取る・採る・捕る・獲る・執る・摂る・盗る・撮る・録る」の9つである。一般的には「取る」を使うが、特に意味を限定したい時に他の漢字をあてがう。

以下、個々の漢字について用例を示しつつ、使う範囲を絞ってみる。

まず、「採る」に関しては、「きのこを採る」「貝を採る」「血を採る」のような「採集・採血」。また「卒業生を採る」や「その説を採る」のような「採用」。「決を採る」の「採決」。上記の学習漢字のつかいかた辞典に書かれているような場合に使われる。

次の「捕る」は「捕獲」という言葉からも分かるように、何かをつかまえた時に使われる。

「獲る」は「捕る」と似たような意味ではあるが、捕まえた後も、自分の支配下に置く場合に使われる。「獲得」の熟語が背景にある。

「執る」は「事務を執る」「指揮を執る」「筆を執る」が例文として挙げられる。「執務」や「執筆」といった熟語が浮かぶ。「執」自体は「しっかり握る」や「しっかり守る」といった意味を持つ。

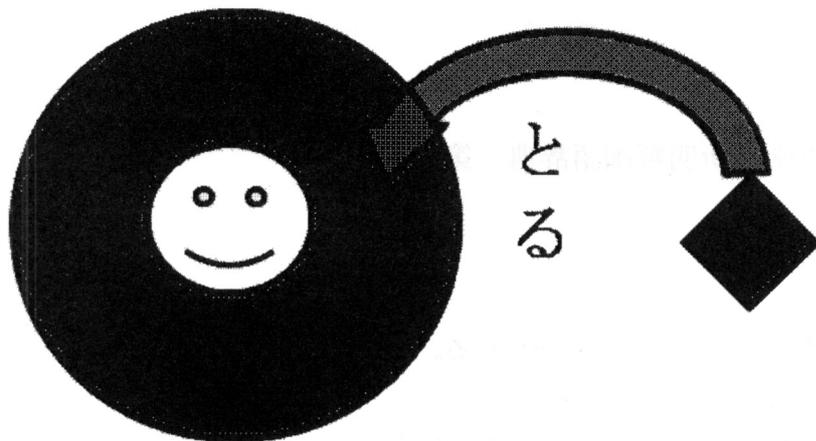
「摂る」は「栄養を摂る」のように使い、「摂取」の意味で使う。

「盗る」は「盗む」と同義である。「ぬきとる」の語から当てられたものと思われる。

「撮る」は「映画を撮る」や「ビデオを撮る」が例で、「撮影」の意味で使う。

「録る」は「音楽を録る」、「ビデオを録る」で「録画」の意味で使う。「撮る」と重なる部分があるが、「撮る」は何かを映す事に、「録る」は保存するという行為に焦点があてられている。

「とる」の基本は「取る」であり、一般的にほとんどの意味で用いることができる。この「取る」の意味を、こまかい状況に限定するために、異なった漢字が当てられている。



図のように、「とる」は「対象を自分の範囲・支配下に置く」という意味が根底に存在している。

#### ■日本語教育の視点から

「とる」の基本は「取る」なので、まずはここから教える。それ以外の「採る・捕る・獲る・執る・摂る・盗る・撮る・録る」などは、細かいそれらの状況で「とる」を使用するときに、随時教えていくのがよい。「取る」を理解した、日本語上級者にはすべての「とる」をまとめて扱い、区別させることも必要である。

執筆者

稲井弓子 松本敬子

編集者

四元憲太郎

## ひく

### ■辞書記載の意味(三省堂 新明解国語辞典 第六版)

#### 【引く】

##### 〈一〉(他動詞五段)

- ① [その物の一端をつかんで]自分の手元へ近づける。  
「綱を引く／老人の手を引く」
- ② 多くの物の中から必要なものを(原形のまま)取り出す。  
「大根を引く[=土の中から抜く]／くじを引く」
- ③ [線などを]途中で切らず(まっすぐ)長く伸ばす。  
「幕を引く／線を引く／水道(ガス・電気・電話)を引く」
- ④ 伸ばして一面に塗る  
「床に油を引く／敷居に蠟を引く」
- ⑤ 本体(今まで存続した)と同性質のものがあとまで絶えないで残る(続く)。  
「親の血筋を引く／尾を引く／声を長く引く」
- ⑥ 出ていたものを一定の線まで下げる。  
「腰を引く／兵を引く[=軍勢を後退させる]／[野球で]出かかったバットを引く」
- ⑦ それまで続いていたことをやめ、関係を断ち切る。  
「自ら身を引く[=引退する]／仕事から手を引く[=関係を断つ]」
- ⑧ 自分が先に立ち、そのものを持ちあげずに移動させる。  
「荷車を引く／すそを引く／ネズミが野菜を引く[=そっと盗む]」

##### 〈二〉(自動詞五段)

- ① 後ろへ下がる。逃げる。  
「あとに引けない立場」
- ② 何かの無くなった状態に変わる。  
「潮が引く／熱が引く[=下がる]／客足が引く[=少なくなる]／顔から血の気が引いた」

※表記 〈一〉 ①は【曳く・惹く】、〈一〉 ⑥⑦・〈二〉は【退く】とも書く。

#### 【挽く】

のこぎりで切って分ける。

「木を挽く／のこを[=のこぎりで]挽く」

- ① ろくろを回して物を作る。  
「ろくろで挽いて椀を作る」

② [人や馬・牛が]車をひっぱる。引く。

【弾く】

[管弦楽器やピアノなどの]楽器を鳴らす(鳴らして演奏する)

【碾く】

[穀物などを]臼を回して、粉にする。

「臼を碾く／粉を碾く／コーヒー豆を碾く」

【轆く】

人・動物などの上を車輪でおしつけて通る。

「車に轆かれる」

■考察

「ひく」をイメージすると図1のようになる。

そして、焦点を当てる場所によって意味の使い分け、漢字の使い分けができる。

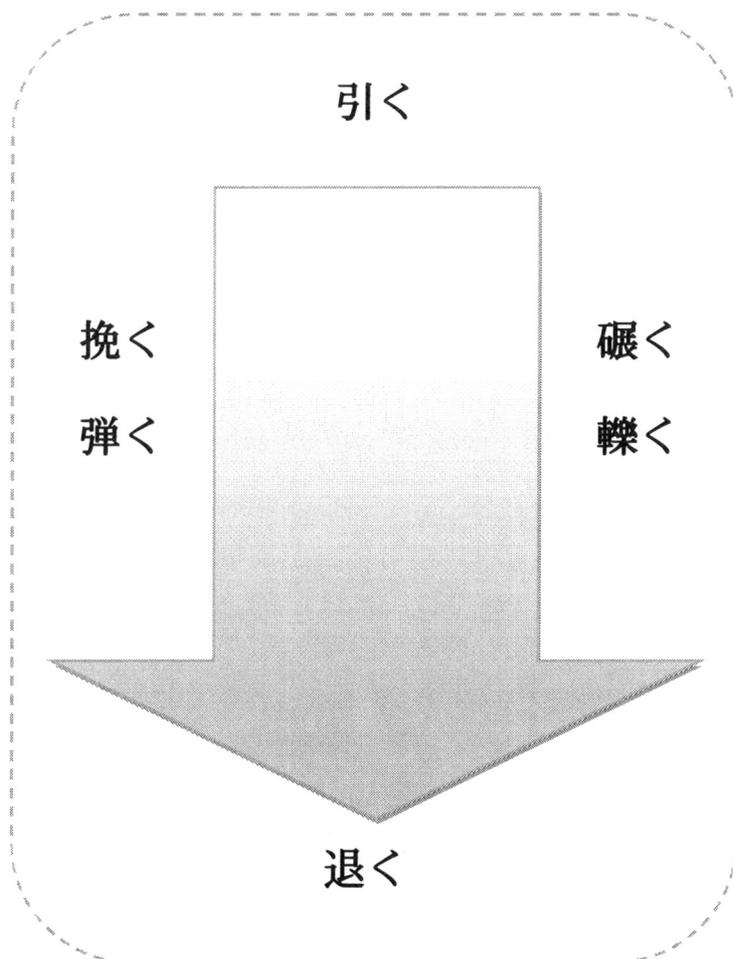


図1 「ひく」の概念図

まず「引く」についてみてみると、焦点は矢印の根元となっている。つまり、あるものを矢印の先端へと移動させる行為、概念と言える。また、「退く」については、矢印の根元にあったものが矢印の先へ移動した結果に焦点が当てられている。

あとの4つの「ひく」は、矢印の胴体の部分に焦点を当てている。矢印の胴体の部分＝行為の過程部分である。刃物など鋭利なものが矢印の胴体になっている場合は挽く。刃物でない場合は碾く。車の場合は轆く。楽器の場合は弾く。このように使い分けることができる。

#### ■日本語教育の視点から

一般的にも一番よく使うのは「引く」であって、意味的にも「引く」の①で用いられるものである。この動作は授業中にでも行えるものであるので、実際に生徒に動作をやってもらい、動作と言語との意味、漢字を結びつけるとよいだろう。そのほかの「ひく」については「引く」を覚えた後、それぞれの用法が出てきたときに個別に勉強していくとよい。

執筆者

中田芽衣

編集者

上田智哉

## 執筆者名簿

中本綾子	2003 年度卒	11 期生
平山剛	2003 年度卒	11 期生
真後広子	2003 年度卒	11 期生
朴廷珍	2004 年度修士卒	
石田充	2004 年度卒	12 期生
伊藤貴祥	2004 年度卒	12 期生
戎屋紘子	2004 年度卒	12 期生
中西俊輔	2004 年度卒	12 期生
別所佑子	2004 年度卒	12 期生
副田邦生	2004 年度卒	12 期生
黄佳瑩	2005 年度修士卒	
今井蘭泉	2005 年度卒	13 期生
飯田恭央	2005 年度卒	13 期生
柿本小百合	2005 年度卒	13 期生
加藤聖人		13 期生
高橋怜子	2005 年度卒	13 期生
高橋若菜	2005 年度卒	13 期生
富田夏子	2005 年度卒	13 期生
中村苑子	2005 年度卒	13 期生
中村久子	2005 年度卒	13 期生
森下泰行	2005 年度卒	13 期生
若月亜由美	2006 年度卒	14 期生
赤間千恵子	2007 年度卒	14 期生
小杉崇文	2007 年度卒	14 期生
小林惇子	2007 年度卒	14 期生
白鳥萌	2007 年度卒	14 期生
中瀬千佳子	2007 年度卒	14 期生
渡辺信太郎	2007 年度卒	14 期生
内山恵	2007 年度(春)卒	14 期生
稲井弓子	2008 年度卒	15 期生
河合聡志	2008 年度卒	15 期生
斉藤ゆり	2008 年度卒	15 期生
山本健介	2008 年度卒	15 期生

松本敬子	在学	16期生
中田芽衣	在学	16期生
上田智哉	在学	16期生
四元憲太郎	在学	16期生
庄司由香里	在学	17期生
野村銀河	在学	18期生
金鍾大	在学	19期生

## 編集者名簿

上田智哉	在学
四元憲太郎	在学
庄司由香里	在学
田邊寿子	在学
武政美希	在学
佐々かおり	在学

### 監修者の一言

日本語教育研究会は今世紀に入ってから、本格的に「意味分析」をレギュラーの課題として取り組んできました。意味や用法が似ているいくつかの語は、それぞれが異なる守備範囲を持っているからこそ共存していると言えます。意味範囲が少しずつずれていて、それぞれに守備範囲を守っています。語の意味分析にはさまざまなアプローチがありますが、ここでは用法、特に日本語を学ぶ外国人にとって有益な用法分析を旨としています。日本語を母語とする日本人にとっては意外に難しい分析ですが、研究会メンバーは協力して懸命に取り組みました。ここに収録した分析結果は、メンバーのオリジナルな発想と分析をほぼそのまま載せたものです。もちろん未熟なところも多々ありますが、この経験自体、それぞれのメンバー自身にとって、いずれ何かの役に立つ時が来るだろうと思います。この研究会は今年度（2009年度）をもって幕を閉じますが、このように一冊の本の形でまとめることができ、本当によかったと思います。

2010年1月 担当：重松 淳



2008年2月冬合宿 八王子セミナーハウスで撮影

---

---

意味分析やりました

---

発 行 日 2010年2月15日  
著 者 重松 淳 日本語教育研究会  
監 修 重松 淳  
発 行 所 慶應義塾大学 湘南藤沢学会  
印 刷 所 株式会社 ワキプリントピア

---

---

ISBN 978-4-87762-230-5  
SFC-RM2009-003



二〇一〇年二月十三日

重松淳研究会